

2010年度の山口大学の国際交流活動



2012年3月

山口大学国際戦略室

目次

はじめに	1
第1章 2010年度の国際戦略室の活動	3
1. 山口大学 HP「WEEKLY NEWS」で見る 2010年度の国際戦略室の活動	3
2. 国際戦略本部及び国際戦略室の組織と役割	14
3. 学術交流協定	15
(1) 2010年度の学術交流協定の締結等	15
(2) 大学等間学術交流協定一覧	16
(3) 部局等間学術交流協定一覧	19
4. 海外拠点	22
5. 本部への海外からの来訪者一覧	23
6. 本学学長等の海外訪問一覧	25
7. その他	26
(1) 山口大学「国際月間」	26
(2) 国際協力活動推進プラットフォーム	26
(3) 国際会議、国際シンポジウムの開催	27
(4) 政府開発援助 (ODA) との連携	27
(5) ODA 事業との連携実績	28
(6) 研究者の交流	31
(7) 職員の研修	31
(8) 学内の国際化推進体制の整備	32
(9) 留学生の促進策	32
(参考) 出身国・地域別留学生数の推移	33
(参考) 学術交流協定に基づく交換留学生数	34
第2章 2010年度の留学生部門の活動	35
1. 日本語・日本文化短期研修 (サマープログラム) の開催	35
2. 山口大学・中国山東大学・韓国公州大学校 3 大学学生交流	35
3. 「第3回留学生就職支援フェスタ・イン・山口」と「留学生のための日本企業文化理解講座」	36
4. 各学部からのニュース	37

(1) インドネシア・ウダヤナ大学との国際連携による衛星リモートセンシング人材育成事業（理工学研究科）	37
(2) 外国人留学生のための特別支援プログラム2年目スタート（人文学部） ----	37
第3章 2010年度の学術研究部門の国際交流活動	39
1. 独立行政法人日本学術振興会助成	39
(1) アジア研究教育拠点事業 【大学院医学系研究科（農学）山田守教授他】 ---	39
(2) 若手研究者交流支援事業 【大学院医学系研究科（農学）山田守教授他】 ---	40
(3) 二国間交流事業 【大学院理工学研究科（工学）李柱国教授】	41
(4) 外国人特別研究員 【大学院理工学研究科（工学）中山則昭教授】	42
(5) 論文博士号取得希望者に対する支援事業 【大学院連合獣医学研究科 音井威重教授】	43
(6) 先端科学シンポジウム 【大学院理工学研究科（工学）真田篤志准教授】 ---	43
(7) 特定国派遣研究者 【農学部 松下一信教授】	44
2. 文部科学省助成	45
(1) 科学技術振興調整費「国際共同研究の推進」 【大学院医学系研究科（農学）山田守教授他】	45
3. 独立行政法人日本学生支援機構助成	46
(1) 帰国外国人留学生短期研究制度【大学院医学系研究科（理学）山中明准教授】	46
(2) 帰国外国人留学生研究指導事業【大学院医学系研究科（理学）祐村恵彦教授】	47
4. 山口大学／財団法人山口大学教育研究後援財団助成	47
(1) 中国短期派遣研究者プログラム	47
① 人文学部 坪郷英彦教授	47
② 経済学部 陳禮俊教授	48
③ 大学院東アジア研究科 阿部泰記教授	48
(2) 研究者招へい事業	48
① 大学教育機構 大学教育センター 何曉毅教授	48
② 大学教育機構 留学生センター 赤木彌生准教授	49
③ 大学院東アジア研究科 阿部泰記教授	49
第4章 2010年度の各学部・研究科等の活動	50
1. 人文学部 林伸一教授他 「平成22年度 人文学部教育・研究活動活性化のための戦略的プロジェクト『外国人留学生のための特別支援プログラム』【中国，韓国，台湾，タイ他】	50
2. 教育学部 石井由理教授他 「国際協力活動推進プラットフォーム ワット・ポー小学校教員招聘プロジェクト」 【カンボジア】	53

3. 教育学部 和泉研二教授他 「アジア地域における国際教育協力事業」 【カンボジア】	55
4. 教育学部 池田恵子准教授 「日英比較スポーツ史研究—スポーツ史研究に与えた日本の影響」 【イギリス】	58
5. 大学院医学系研究科（医学）杉野法広教授他 「Michigan State University WOMEN'S HEALTH SYMPOSIUM ITINERARY」 【アメリカ合衆国】	61
6. 大学院医学系研究科（医学）杉野法広教授他 「産科婦人科学特別セミナー」 【フランス】	63
7. 大学院理工学研究科（理学）増本誠教授、廣澤史彦准教授 「ベトナムの HUT （ハノイ理工科大学）との研究交流プロジェクト」 【ベトナム】	64
8. 大学院理工学研究科（工学）上村明男教授 「Accepting a visiting Professor and exchanging researchers from Erlangen University」 【ドイツ】	66
9. 大学院理工学研究科（工学）上村明男教授 「Visiting Nanyang Technological University」 【シンガポール】	68
10. 大学院理工学研究科（工学）小寺敏郎講師 「カナダのモントリオール理工 科大学訪問」 【カナダ】	70
11. 大学院技術経営研究科 福代和宏教授他 「ラオス日本センター・ビジネス人 材育成プロジェクト（ラオス大学経営学修士プログラム支援）」 【ラオス】	73
12. 大学院連合獣医学研究科 田浦保徳教授他 「インドシナ地域における拠点・ 支援大学の教育実態調査と相互交流」 【ラオス】	75
13. アドミッションセンター 大澤公一講師 「Visiting the Korea Institute for Curriculum and Evaluation (KICE)」 【韓国】	78
14. アドミッションセンター 大澤公一講師 「Visiting the Australian Council for Educational Research (ACER)」 【オーストラリア】	79

はじめに

山口大学は「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」を理念として、人間力とバイタリティーあふれる人材を輩出できる大学、教員と学生が共に育つ「共育できる大学」を目指しています。この「共育」には、大学と地域が連携してグローバル化の中で共に学び発展すること、留学生を迎え、送り出すことによって、それらの国々と日本が相互の理解を深め、協力し合って平和で持続性のある世界を目指して手を携えるという意味も含まれています。これらの認識に基づき、グローバル化社会に対応する「チャレンジ精神、行動力、課題探求力があり、自ら人生を切り開くことのできるたくましい人材を育てる大学」を目指したいと思っています。また、地域社会や国際社会の発展に貢献できる人材育成大学としてさらなる発展を目指します。

山口大学は「知」の公共財として、大学を取り巻く地域のリソースと連携して、国際的貢献を担うべきであるとも考えています。2008年4月に学長を本部長とする「国際戦略本部」を設置し、関連する他の部局とも連携を深めながら、大学の国際化について様々な議論を重ね、それに向けた活動を続けています。「国際」というキーワードは、教育と研究に幅広く複雑に関係しているため、国際化に関しても様々な意見や考えがあり、関連する活動も多岐にわたっています。

本報告書では、第1章にて本学において行われている国際化に向けた取組を2010年度の国際戦略室の活動をもとに取り纏め、留学生部門、学術研究部部門にて実施された国際交流事業をそれぞれ第2章、第3章に掲載いたしました。また第4章では、各部局にて2010年度に実施された国際活動の報告を掲載しています。

この報告書が、学内のみならず本学に関係される多くの方々、大学を取り巻く地域の方々に、本学の国際化の一端を知っていただけたら幸いです。同時に、報告書をお読み頂いた方々から、多くの貴重な意見を頂くことができれば、本学の国際化推進に役立つものと期待しています。これからも大学内外の関係者の皆様のお知恵をお借りしながら、積極的に山口大学の国際化を推進していきますので、皆様方の力強いご支援をお願いいたします。

国際戦略室

2010 年度の山口大学の国際交流活動

第1章 2010年度の国際戦略室の活動

1. 山口大学 HP 「WEEKLY NEWS」 で見る 2010 年度の国際戦略室の活動

○JENESYS プログラムによりフィリピンの大学生が訪学（掲載日：2010/05/10）



4月26日（月）、21世紀東アジア青少年大交流計画（JENESYS プログラム）の一環で、フィリピンから、約30人の大学生が吉田キャンパスを訪れました。このプログラムは、日本政府が、平成19年から5年間、毎年6,000人程度の東アジア・オセアニアの青少年を日本に招き、相互理解と友好促進を目的に実施しているものです。

当日は、歓迎セレモニーとして、松田副学長からの歓迎の挨拶、訪問団代表者のスピーチ、山口大学イメージDVDの上映、服部留学生センター長からの大学の概要、入試制度等の説明を行いました。

続いて、キャンパスツアーを行い、埋蔵文化財資料館、図書館、国際交流会館を2グループに分かれて見学しました。

その後、教育学部の「ちゃぶ台ルーム」に場所を移し、日本の「上座」の概念や、「上座・下座」のないちゃぶ台を囲んで学生、教員がディスカッションを行うメリットについて、教育学部の学生から、クイズを交えながら説明がありました。

学生との交流会では、和気あいあいとした雰囲気の中で、自己紹介やゲームで親睦を深めました。訪問団の学生は「初めて日本に来たが、大変美しい国で感動した。日本人は親切だけでなく、勤勉であるという印象を受けた」と感想を述べていました。

○日独学長会議出席、エジプトのカイロ大学、アル・アズハル大学訪問

（掲載日：2010/06/07）



5月17日（月）～18日（火）、日独学長会議がドイツのベルリン市で開催され、山口大学からは丸本学長、松田副学長（国際・社会連携担当）が出席しました。

会議には、日独の約60大学（日本側約30大学、ドイツ側約30大学）が参加し、「優れた教育、学習、研究の支援」、「変遷する大学運営」、「大学の戦略的国

際化ならびに共同活動のチャンス」および「大学として如何にグローバル化の課題に対処し得るか」について、日独両国の共通の課題、協力に向けての方策についての議論を行いました。歓迎のレセプションでは、丸本学長が日本の大学の代表として「この会議を契機に、ドイツの大学と日本の大学の交流が一層緊密になることを期待します。」と挨拶しました。

また、山口大学がアフリカの大学と新たな協力関係を築くために、5月20日（木）に、カイロ大学（エジプト・カイロ市）のフセイン・ハレド副総長、5月22日（土）には、世界最古の大学の1つであるアル・アズハル大学（エジプト・カイロ市）のアブドゥッラー・エルホセイニ総長を訪問し、学術交流について意見交換を行いました。さらには、在エジプト日本大使館の石川薫大使、JICAエジプト事務所の井黒所長を訪問し、エジプトの大学との交流、E-JUST（エジプト-日本科学技術大学）への参画についての協議を行いました。

今後、アフリカの大学とのさらなる交流の発展が期待されます。

○駐日ルワンダ共和国特命全権大使が山口大学を訪問（掲載日：2010/08/02）



7月26日（月）、アフリカ中部に位置するルワンダ共和国のアントワーヌ・ムニャカジ・ジュル駐日大使が本学を訪問し、丸本学長、各副学長および事務局部長らと、意見交換を行いました。

初めに丸本学長から、「今後の交流のためにもぜひこの訪問を有意義なものにしたい」と挨拶がありました。

続いて、ジュル大使が「日本は明治維新後、知識と教育を基礎に、技術力を強みとして急速な発展を見せたが、我々もそれを手本とし、教育に焦点を当て人材育成に努めたい。山口大学は伝統ある素晴らしい大学であり、今後ぜひ交流を行っていきたい。今回山口大学を訪問することができてとても嬉しい」と述べ、ルワンダ国立大学と本学との交流を提案されました。

その後、奇跡的復興を遂げたルワンダ共和国の紹介を行った後、出席者の間で、ルワンダの教育制度や今後の交流の進め方について質疑応答が行われ、最後にジュル大使と丸本学長が記念品を交換しました。

今後、アフリカの大学とのさらなる交流の発展が期待されます。

○山口大学日本語・日本文化サマープログラムを開催（掲載日：2010/08/30）



7月12日（月）～8月6日（金）の約1ヶ月間、海外の学生を対象に日本語や日本文化の理解を深めてもらうことを目的とした「山口大学日本語・日本文化サマープログラム」を開催し、学术交流協定校を中心に台湾、中国、韓国、イギリスおよびマレーシアの5カ国・地域から44人が参加しました。

本プログラムでは、日本語の授業はもちろん、茶道・華道の体験や、瑠璃光寺、サビエル記念聖堂など歴史的名所を観光したほか、萩での花火大会や山口七夕ちょうちん祭りといった日本ならではの行事も体験し、日本の文化や自然に触れました。

また、1泊2日でのホームステイも行い、日本での生活を通して、日本語や日本の習慣への理解を深めました。

終了後のアンケートでは、「交換留学生として勉強したい」、「将来、日本文化に関わる仕事がしたい」といった感想が多数寄せられ、参加者にとって今回のプログラムは大変有意義なものになりました。

○在福岡アメリカ領事館広報担当領事が山口大学を訪問（掲載日：2010/09/06）



8月27日（金）、在福岡アメリカ領事館のマイケル・チャドウィック広報担当領事が吉田キャンパスを訪問し、松田副学長（国際・社会連携担当）らと学生交流等について意見交換を行いました。

松田副学長は、「大学や企業の国際化が進む中、多くの山口大学の学生に米国を含む海外に留学してほしいと思っている。また、米国から本学への留学生も増やしていきたい。」と述べ、本学と米国の大学との交流について協力を求めました。

チャドウィック領事は、「日本から米国への留学が減少しているが、多くの日本人学生に米国留学に関心を持ってほしい。自分も数年前の外国語指導助手や日本企業勤務の経験が現在の領事館勤務につながったので、国際経験は重要であると思う。」と述べ、米国への留学等について山口大学の学生等を対象とした講演を行うことを提案されました。

今後も海外との学生交流が活発に行われることを期待しています。

○カナダ・リジャイナ大学学長が山口大学を訪問（掲載日：2010/10/04）



9月17日（金）、カナダのリジャイナ大学のヴィアン・ティモンズ学長が吉田キャンパスを訪問し、丸本学長、松田副学長（国際・社会連携担当）らと懇談を行いました。

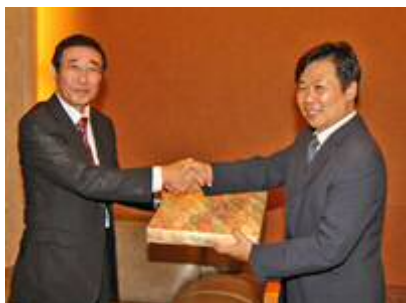
最初に、ティモンズ学長からリジャイナ大学の特色でもあるUR Guarantee Program（学生の就職を視野に入れ、長期間、総合的な教育を行う学生支援プログラム）の紹介があり続いて、丸本学長から山口大学の国際化の現状について説明がありました。

その後、学生、研究者、スタッフの相互交流の促進などについて幅広く意見交換を行い、懇談終了後には、図書館および埋蔵文化財資料館の見学もしました。

同大学とは、平成8年に学術交流協定を締結して以来、交換留学や春・夏期に実施されている語学研修プログラムを通じて交流を深めており、今回の訪問により、本学とリジャイナ大学との交流がこれまで以上に活発になることが期待されます。



○丸本学長らが中国・山東大学を訪問（掲載日：2010/10/12）



9月21日（火）～22日（水）、丸本学長、松田副学長（国際・社会連携担当）が中国の山東大学を訪問し、本学に在籍経験のある徐顕明（ジョ・ケンメイ）学長をはじめ、教職員および学生と、ダブルディグリープログラムや医学、工学分野での交流など、今後の両大学の交流について幅広く意見交換を行いました。

また、山東大学内に設置されている山口大学国際連携オフィス（Yamaguchi University International Collaboration Office, Shandong）を視察しました。

同大学とは、昭和 58 年に大学間学術交流協定を締結して以来、研究者をはじめ、留学生の派遣・受入を中心に 27 年間、積極的に関係を発展させてきました。

今回の訪問により、今後、山東大学とのさらなる交流が期待されます。



○山口大学国際月間「特別講演会」を開催（掲載日：2010/11/01）



山口大学では、毎年 10 月を国際月間と定め、国際交流、国際協力活動を積極的に推進することを目指しています。このたびその一環として、学生の米国留学に対する意識・関心を高めるために、10 月 27 日（水）、在福岡アメリカ領事館広報担当領事マイケル・チャドウィック氏を講師に迎え、吉田キャンパス（メディア講義室）を主会場に、各キャンパスを遠隔講義システムで結び、山口大学国際月間「特別講演会」を『Studying Abroad in America-The Value of International Exchange- 米国留学についてー国際交流の大切さー』と題して開催し、一般市民を含む、計 90 人（学生 60 人、教職員 23 人、一般市民 7 人）が参加しました。

講演会では、初めに丸本学長から、開会の挨拶があり、続いてチャドウィック領事が、自身の留学や国際経験で得られたもの、アメリカ留学のメリット、アメリカ留学の教育環境の特色、日米の授業料比較、ビザ申請手続き等一部ジョークを交えながら講演されました。

なお、学生にとっては通常の講義では得られない貴重な講話を拝聴でき、また、留学に対する意識の高揚への絶好の機会となりました。



○山口大学 韓国公州大学校 中国山東大学 3 大学学生交流 2010」を開催

(掲載日：2010/11/11)



平成 22 年 10 月 24 日 (日) ～11 月 1 日 (月) の 9 日間、吉田キャンパスにおいて、「山口大学 韓国公州大学校 中国山東大学 3 大学学生交流 2010」を開催し、公州大学校および山東大学からそれぞれ学生 5 人と教員 1 人、本学から学生約 25 人と教職員 3 人の合わせて約 40 人が参加しました。

このプログラムは、学術交流協定を締結している 3 大学の学生が交流活動を通じて、お互いの価値観や考え方について意見交換することで、東アジアの文化理解、交流促進、平和理解への認識を高めることを目的に、毎年開催しているものです。

今回のプログラムでは、日本の歴史的建造物の見学や、各国の家庭料理を作って食べる、三国料理実習などを実施し、学生たちは異文化理解を深め、お互いの大学に対する認識を新たにし、トライアングルの友情を深めました。また、「私の結婚観」というテーマでディスカッションを行い、三ヶ国の若者が自身の結婚に対する考えを真剣に話し合いました。

今後、それぞれの国の歴史や文化に対する理解が深まり、今まで以上に活発な交流が期待されます。



○「山口国際協力の里ネットワーク」報告会を開催（掲載日：2010/12/13）



11月29日（月）、吉田キャンパスにおいて、「山口国際協力の里ネットワーク」報告会を開催し、企業・行政機関等から45人が参加しました。このネットワークは、本学が触媒となって山口地域と国際社会との関わり（山口地域の国際化）を強化し、その活性化を図ることを目的とするもので、今回の報告会では、県内で実施されている国際活動の事例紹介と今後の活動についての検討が行われました。

報告会では、丸本学長の挨拶の後、本学エクステンションセンターの辰己准教授から「韓国全羅南道海南と周南市洪川の交流事業」、また、山口県地域振興部林調整監から、「留学生との協働による山口県の観光情報発信」についての活動事例報告があり、参加者による活発な意見交換が行われました。本学では、今後も、山口地域の国際化への活動に取り組み、本報告会も随時開催していく予定です。



○時間学国際シンポジウム「体内時計と健康社会」を開催（掲載日：2010/12/20）



時間学研究所 明石教授

12月10日（金）、小串キャンパスの霜仁会館において、本学時間学研究所主催による、時間学国際シンポジウム「体内時計と健康社会」を開催し、研究者や一般の方など130人が参加しました。このシンポジウムは、時間学研究所の設立10周年を記念し、時間学の中核を担う領域である時間生物学に関連する研究成果を広く社会へ還元することを目的に実施しました。

シンポジウムでは、初めに時間学研究所の明石真教授が「ここまでわかった体内時計のしくみ」と題し、これから期待される体内時計の活用方法などについて、自身の研究成果をもとに講演を行いました。引き続き、アメリカ・フロリダ州立大学医学部のチューゴン・リー准教授が「Timing is everything: The secret of the biological

clock タイミングがすべて：生物時計のひみつ」、スイス・チューリッヒ大学薬理学・毒性研究所のステューベン・ブラウン教授が「A cellular approach to studying human daily behavior 細胞学的手法によるヒト行動リズム研究」、労働安全衛生総合研究所の高橋正也上席研究員が「『変な』時間に働く人々の健康を守るために」と題し、それぞれ、マウスを利用した概日時計（約24時間周期の体内時計）の根幹メカニズム研究、概日時計によるヒトの行動メカニズム研究および生活リズムが不規則な交代勤務労働者の健康管理について、講演を行いました。

体内時計に関する最先端の研究についての講演に、質疑応答も活発に行われ、参加者にとって、健康な生活を送るためには、体内時計に対する知識が必要であることを理解する有意義なシンポジウムとなりました。

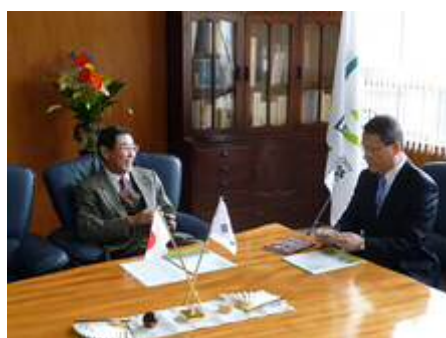


フロリダ州立大学医学部
リー准教授

チューリッヒ大学薬理学・
毒性研究所
ブラウン教授

労働安全衛生総合研究所
高橋上席研究員

○駐広島韓国総領事館総領事が山口大学を訪問（掲載日：2010/12/27）



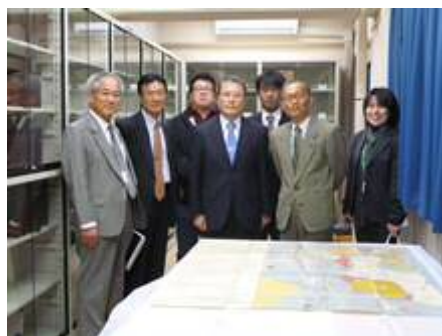
12月3日（金）、駐広島韓国総領事館の許徳行総領事が吉田キャンパスを訪問し、丸本学長、エクステンションセンター辰己准教授、本田総合企画部長らと懇談を行いました。

丸本学長は、本年2月に韓国の教育科学技術部長官を訪問したことや、韓国の大学と山口大学との交流状況について説明し、今後も隣国である韓国の大学等と交流を拡大していきたい旨伝えました。これに対し、許総領事は、韓国と地理的にも近い山口県にある山口大学との関係強化に期待し、交流促進に協力していきたいと答えました。

また、出席者の間で、韓国への本学海外事務所設置の可能性や韓国の学生の留学に

対する考え方について意見交換が行われ、懇談終了後、許総領事は、商品資料館、東亜経済研究所および図書館などの施設を見学しました。

今回の訪問により、本学と韓国の大学等の交流が、より一層発展することが期待されます。



○インドネシアで「STUDY IN JAPAN」セミナーおよび第1回インドネシア同窓会を開催

(掲載日：2011/01/31)



1月8日(土)、インドネシアのジョグジャカルタ州ガジャマダ大学内の山口大学国際連携オフィス(YUICO)で、「STUDY IN JAPAN」セミナーが開催され、インドネシア全土から日本への留学に関心を持つ学生100人以上が集まりました。セミナーでは、最初に、松田副学長(国際・社会連携担当)から山口大学の紹介があった後、在インドネシア日本大使館の本村一等書記官が日本留学について説明しました。

また、インドネシアの学生によるパフォーマンス、YOSAKOIソーランの披露に続き、山口大学からの帰国留学生4人が、自身の留学体験を語り、その話を受けてパネルディスカッションが行われました。参加した学生からは山口大学の留学生制度、奨学金に関する質問が数多く出て、日本留学への関心の高さを示していました。

セミナー終了後、第1回山口大学インドネシア同窓会が行われ、山口大学帰国留学生8人のほか、松田副学長も参加し、留学当時の思い出話に花が咲きました。今後、同窓会が交流や活動の場として発展することが期待されます。



○留学生へのリサイクル自転車贈呈式（掲載日：2011/03/14）



3月3日（木）、共通教育棟で、山口ライオンズクラブ主催による留学生へのリサイクル自転車贈呈式が行われ、留学生、関係者等合わせて約15人が出席しました。贈られた自転車は、山口ライオンズクラブがボランティアで廃棄自転車10台をリサイクルし、本学の留学生に寄贈したもので、留学生は、本学在籍期間中使用できます。

式では初めに山口ライオンズクラブ会長の宗像常明氏から「自転車を活用して行動範囲を広げてほしい。それに伴い、地域での国際交流が発展することを期待する」と挨拶がありました。続いて、留学生センター長の服部幸夫教授が、「交通ルールを守って自転車を利用してほしい」と述べ、留学生代表の宋 振模（ソウ チェンモ）さん（経済学部）が、「いろいろとお世話いただきありがとうございます」と謝辞を述べました。

留学生が慣れない日本で生活するためには、地域の支援が不可欠です。本学は、より一層の留学生教育の充実を目指すとともに、留学生を通じ、支援いただく地域への社会貢献を実施していくつもりです。



○インドネシアのブラビジャヤ大学医学部長が山口大学を訪問（掲載日：2011/03/21）



3月4日（金）、本学の協定校であるインドネシアのブラビジャヤ大学 Karyono Mintaroem 医学部長ほか6人が吉田キャンパスを訪問し、丸本学長、松田副学長（国際・社会連携担当）と懇談しました。

一行はまた、小串キャンパスを訪問し、岡附属病院院長等の案内で医学部附属病院でのMR I、ドクターヘリ等を視察した後、医学部で佐々木医学部長らと今後の学生交流などについて

て意見交換を行いました。その席で、ブラビジャヤ大学側から、医学系研究科に学生を留学させたいという要望が述べられました。

本学とブラビジャヤ大学は、平成 20 年の学術交流協定の締結以来関係を深めており、今後より一層の交流が期待されます。



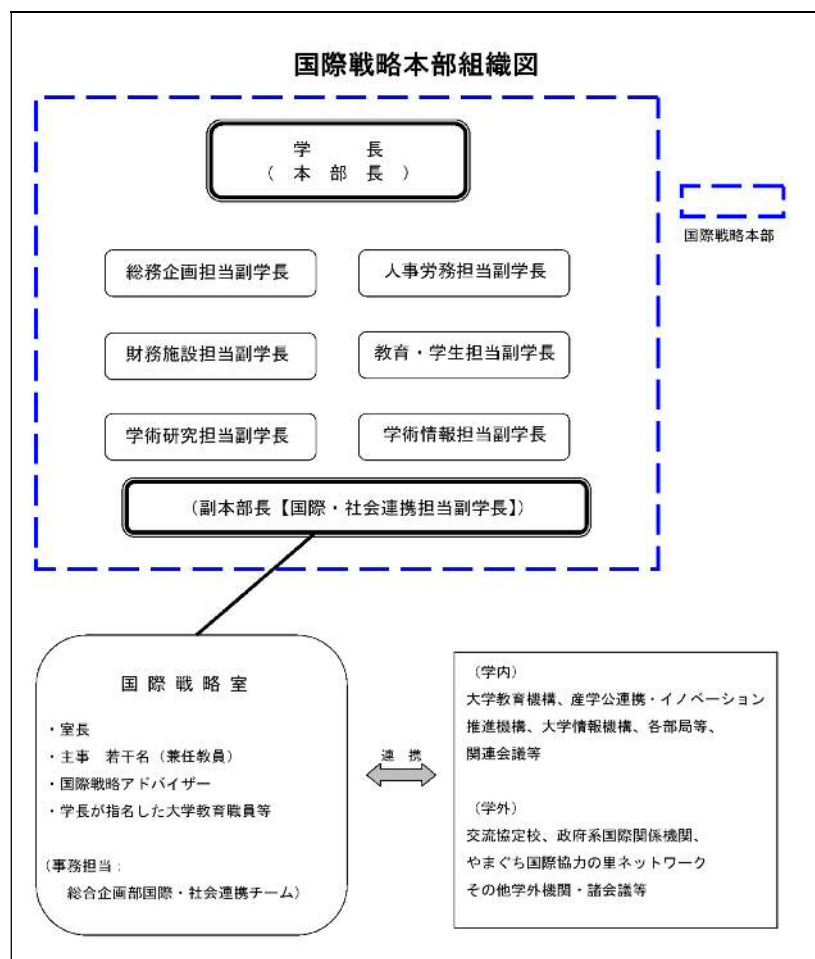
2. 国際戦略本部及び国際戦略室

(1) 国際戦略本部、国際戦略室の組織と役割

2008年4月に学長を本部長とする国際戦略本部が設置され、国際化に関する大学としての企画立案体制が整備された。また、国際戦略本部の下に、学長特別補佐、教員及び職員を構成員とする国際戦略室(以下、「戦略室」)を置き、国際戦略の企画立案を推進することとされた。さらに、国際戦略室の活動を支援するための事務組織としては、総合企画部国際・社会連携チームが置かれている。

国際戦略本部、国際戦略室の関係及び各構成員は、次の組織図のとおりである。

※2010年より副学長が増えたことに対応して、国際戦略本部の構成員も変更されている。また、2010年より、国際・社会連携担当学長特別補佐に代わり新設された副学長(国際・社会連携担当)が国際戦略副本部長、国際戦略室長となっている。



国際戦略本部、国際戦略室の業務は次のように定められている。

・ 国際戦略本部の業務

- (1) 教育研究活動における国際的な活動に係る国際戦略に関すること。
- (2) その他国際戦略に関する重要な施策に関すること。

・ 国際戦略室の業務

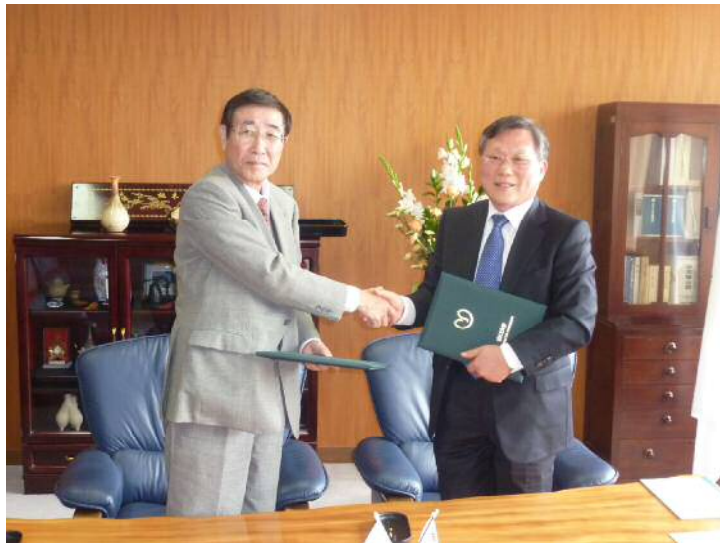
- (1) 国立大学法人山口大学の国際連携に係る企画，立案及び実施に関すること。
- (2) 国際交流に関する情報の収集，整理及び提供に関すること。
- (3) 国際協力に関すること。
- (4) 学術交流協定に基づく活動の推進に関すること。
- (5) 海外に向けた大学の国際交流に係る情報の発信に関すること。
- (6) その他国際戦略活動に係る重要事項に関すること。

3. 学術交流協定

(1) 2010年度の学術交流協定の締結等

2010年度は学術交流協定を4大学(大学間2大学、学部間2大学)と締結し、7の大学(大学間1大学、学部間6大学)と更新した。

その結果、2011年3月末現在で、大学間では、11ヶ国、40大学・機関と学術交流協定を締結、学部間では、本学の6学部、2研究科、附属病院が14ヶ国、41件の学術交流協定を締結していることとなった。



【2010.4 群山市立大学と協定締結後、総長（右）と握手を交わす丸本学長（左）】

(2) 大学等間学術交流協定一覧

国・地域名	機関名（英語表記）	締結 年月日	学生交流 覚書
インドネシア	ブラウイジャヤ大学 (Brawijaya University)	2008.04.15	有
	ガジヤマダ大学 (Gadjah Mada University)	2008.10.14	有 (理工学 研究科)
	ボゴール農科大学 (Bogor Agricultural University)	2010.03.10	
	ウダヤナ大学 (Udayana University)	2010.03.25	有 (理工学 研究科)
韓国	仁荷大学校 (Inha University)	1998.06.25	有
	公州大学校 (Kongju National University)	1999.03.15	有
	韓国外国語大学校 (Hankuk University of Foreign Studies)	2003.12.02	有
	慶尚大学校 (Gyeongsang National University)	2004.11.26	有
	ソウル市立大学校 (University of Seoul)	2009.12.21	
	昌原大学校 (Changwon National University)	2010.02.10	有
	ソウル大学校 (Seoul National University)	2010.02.11	
	亜州大学校 (Ajou University)	2010.03.08	有
	梨花女子大学校 (Ehwa Womans University)	2010.03.08	有
	群山大学校 (Kunsan National University)	2010.04.26	有
タイ	カセサート大学 (Kasetsart University)	1998.07.03	有

タイ	ソンクラ王子大学 (Prince of Songkla University)	2001.10.29	有
	コンケン大学 (Khon Kaen University)	201.10.30	有
	チェンマイ大学 (Chiang Mai University)	2001.10.31	有
	シーナカリンウィロート大学 (Srinakharinwirot University)	2001.11.01	有
	タイ国農学研究機構 (Agricultural Research Development Agency)	2008.08.27	有
	チュラロンコン大学 (Chulalongkorn University)	2010.09.14	
中国	山東大学 (Shandong University)	1983.06.02	有
	北京師範大学 (Beijing Normal University)	2004.02.09	
	武漢理工大学 (Wuhan University of Technology)	2004.05.20	有
	貴州大学 (Guizhou University)	2005.03.25	有
	重慶理工大学 (Chongqing Institute of Technology)	2010.11.19	有 (工学部)
台湾	国立中興大学 (National Chung Hsing University)	2006.03.09	有
	東海大学 (Tunghai University)	2009.09.30	有
	逢甲大学 (Feng Chia University)	2009.09.30	有
	大葉大学 (Dayeh University)	2009.09.30	有
	静宜大学 (Providence University)	2009.09.30	有
	陽明大学 (National Yang Ming University)	2009.11.20	

ベトナム	教育訓練省 (Ministry of Education and Training of Vietnam)	2009.03.30	
ベトナム	ダナン大学 (University of Danang)	2009.09.17	
イギリス	シェフィールド大学 (University of Sheffield)	1997.11.28	有 (教育学部)
	ロンドン大学ユニバーシティ・カレッジ (University College London)	2007.11.19	
ドイツ	エアランゲン・ニュルンベルク大学 (Friedrich-Alexander University Erlangen-Nuremberg)	2003.03.17	有
アメリカ合衆国	オクラホマ大学 (University of Oklahoma)	1996.02.19	有
カナダ	リジャイナ大学 (University of Regina)	1996.02.07	有
オーストラリア	ニューカッスル大学 (University of Newcastle)	2003.08.08	有 (工学部)

(3) 部局等間学術交流協定一覧

国・地域名	締結部局	機関名 (英語表記)	締結年月日	学生交流 覚書
インドネ シア	理工学 研究科	バンドン工科大学 建築・計画政策開発学部 (School of Architecture, Planning and Policy Development Institute Technology Bandung)	2008.03.14	
韓国	教育学部	釜山大学校 師範学部 (College of Education, Pusan National University)	2010.06.21	
	理学部	韓国天文研究院 電波天文研究部 (Korea Astronomy and Space Science institute)	2010.03.15	
	工学部	忠北大学校 工科大学 (College of Engineering, Chungbuk National University)	2001.10.10	
		全北大学校 工科大学 (College of Engineering, Chonbuk National University)	2004.03.19	
		又松大学校 鉄道大学 (College of Railroad and Transportation, Woosong University)	2010.02.01	
	農学部	忠南大学校 農業生命科学大学 (College of Agriculture and Life Science, Chungnam National University)	2000.05.18	
医学部 附属病院	朝鮮大学校 病院 (Chosun University Hospital)	2006.09.22	有	
タイ	医学部	マヒドン大学 看護学部 (Faculty of Nursing, Mahidol University)	2001.03.26	
		マヒドン大学 検査技術学部 (Faculty of Medical Technology, Mahidol University)	2006.10.1	
	農学部	キングモンクット工科大学 トンブリ校 生物資源工学研究所 (School of Bio resources and Technology King Mongkut's University of Technology Thonburi)	2006.05.23	有
中国	教育学部	復旦大学 情報科学工程学院 (School of Information Science and Engineering Fudan University)	2005.09.23	有

中国	経済学部	遼寧大学 経済学院 (College of Economics and Management, Liao Ning University)	1996.10.17	
		中国人民大学 経済学院 (School of Economics, Renmin University of China)	2001.06.03	有
	医学部	吉林大学 中日聯誼病院 (China-Japan Union Hospital of Jilin University)	2009.09.25	
		大連医科大学 (Dalian Medical University)	2006.12.14	
	工学部	上海交通大学 環境科学工程学院 (School of Environmental Science and Engineering, Shanghai Jiao Tong University)	2004.02.11	
		西華大学 関連工科系学院 (Xihua University)	2007.02.05	
	農学部	新疆畜牧科学院 (Xinjiang Academy of Animal Sciences)	1991.09.02	
		東北師範大学 都市・環境科学学院 (School of Urban and Environmental Science, Northeast Normal University)	2010.04.15	
	東アジア 研究科	復旦大学 日本研究センター (Center for Japanese Studies, Fudan University)	2001.10.29	有
	台湾	経済学部	正修科技大学 管理学部・人文社会学部 (College of management ; and department of sports, health and leisure, college of humanities and social science, Cheng Shiu University)	2010.01.14
医学部		国立台湾大学 医学院 (College of Medicine, National Taiwan University)	2009.04.01	
農学部		国立台湾大学 生命科学学院 (College of Life Science, National Taiwan University)	2007.08.09	
ネパール	農学部	トリブバン大学 農畜産学部 (Institute of Agriculture and Animal Science, Tribhuvan University)	2010.01.27	
バングラ デシュ	経済学部	ダッカ大学 公共管理学部 (Department of public administration, University of Dhaka)	2008.09.22	

バングラ デシュ	理学部	バングラデシュ 核エネルギー食物・放射線生物学研究所 (Atomic Energy Research Establishment Institute of Food and Radiation Biology)	2000.05.04	
ベトナム	理学部	ハノイ理工科大学 応用数学・情報科学部 (Faculty of Applied Mathematics and Informatics, Hanoi University of Science and Technology)	2010.11.20	有
	農学部	ハノイ農科大学 (Hanoi University of Agriculture)	2002.0.3.04	有
ウクライ ナ	教育学部	イヴァン・フランコ記念リヴィウ国立大学 言語学部 (Faculty of Philology, Ivan Franko National University of Lviv)	2004.11.16	有
イギリス	教育学部	セントラル・ランカシャー大学 (University of Central Lancashire)	2008.03.11	
	経済学部	ヨーク大学 経済学部及び関連領域学部 (Dept. of Economics and Related Studies, The University of York)	1993.01.20	
	工学部	ロンドン大学ユニバーシティ・カレッジ 工学部 (The Faculty of Engineering Sciences, University College London)	2007.01.17	
		セントラル・ランカシャー大学 (University of Central Lancashire)	2008.03.01	
		ブリストル大学 工学部 (The Faculty of Engineering, University of Bristol)	2010.03.01	
	アメリカ 合衆国	経済学部	中央フロリダ大学 (University of Central Florida)	2009.01.09
医学部		テキサス大学 ヒューストン健康科学センター看護学部 (Health Science Center at Houston, University of Texas)	1999.03.29	
		バージニア大学 看護学部 (School of Nursing University of Virginia)	2000.11.06	
ブラジル	理学部	パウリスタ総合大学 (Paulista State University)	2001.10.31	有
オースト ラリア	教育学部	キャンベラ大学 (University of Canberra)	1994.03.15	有
ニュージ ー ランド	農学部	ニュージーランド作物・食物研究所 (New Zealand Institute for Crop & Food Research Limited)	2008.09.03	

4. 海外拠点

最近では多くの日本の大学が、留学生募集や、海外の大学との共同研究拠点、共同授業提供などを目的として、海外に事務所を開設するようになった。山口大学でも交流協定校との連携協力によるサテライトオフィスを、2004年10月に中国の北京師範大学、2005年3月に山東大学に設置して来た。主な活動は留学情報の提供である。

2009年度には、海外外拠点の実質化を目指すと共に、拠点事務所を増やすとの方針で、先の2大学にインドネシア、台湾の3大学を加え、以下のとおり計5拠点の体制とした。

- ①「山口大学 北京国際連携オフィス」
住所：中国 100875 北京市新街口外大街 19 号北京師範大学内
- ②「山口大学 山東国際連携オフィス」
住所：中国 250100 山東省済南山大南路 27 号山東大学内
- ③「山口大学 バリ国際連携オフィス」
住所：Udayana University Kampus Bukit Jimbaran Denpasar, Bali, Indonesia
- ④「山口大学 ジョグジャカルタ国際連携オフィス」
住所：Gadjah Mada University Jl. Fauna No.2 Karangmalang Yogyakarta,
55281 Indonesia 【<http://www.yuico-indonesia.com/>】
- ⑤「山口大学 台湾国際連携オフィス」
住所：大葉大学内台湾 51591 彰化県大村郷学府路 168 号 大葉大学内
【<http://www.dyu.edu.tw/~yuicot/all%20yuico.html>】



山東国際連携オフィスのプレート



ジョグジャカルタ国際連携オフィス作成の
山口大学紹介のリーフレット

5. 本部への海外からの来訪者

(1) 本部への海外からの来訪者一覧

日時	訪問者	国・地域名
2010.04.10	ニューカッスル大学 学長 大学長ニコラス・サウンダース ランゲージセンター准教授 シーマス・ファガン	オーストラリア
2010.04.25	群山大学校 大学長 Dr. Jeong-Ryong Chae	韓国
2010.04.26	JENESYS プログラム フィリピン学生	フィリピン
2010.06.07	エジンバラ大学 景観建築学部長 Mr. John Stuart Murray	イギリス
2010.06.21	トリブバン大学 チトワンキャンパス学生部長 Dr. I.P. Dhakal	ネパール
2010.06.21	国立高雄餐旅学院 国際事務処長 呉武忠	台湾
2010.06.21-27	山東大学職員 (SD 研修)	中国
2010.06.22	重慶理工大学 副学長 石曉輝	中国
2010.06.30	リジャイナ大学 日本語教師 ラム・トモコ	カナダ
2010.07.05	渋川-海南 草の根国際交流訪問団一行	韓国
2010.07.26	駐日ルワンダ共和国大使 アントワヌ・ムニャカジ・ジュール大使	ルワンダ
2010.07.27	全南大学校 助教授 Baek Won Jin	韓国
2010.08.27	在福岡アメリカ領事館 広報担当領事 Mr. Michael Chadwick	アメリカ合衆国
2010.09.08	エアランゲン・ニュルンベルク大学 Prof. Markus. R. Heinrich	ドイツ
2010.09.17	リジャイナ大学 大学長 ヴァイアン・ティモンズ、 ディレクター ハービー・キング	カナダ

2010.10.5	JICA 獣医技術研修者	
2010.10.27	在福岡アメリカ領事館 広報担当領事 Mr. Michael Chadwick	アメリカ合衆国
2010.11.04	貴州大学 常務副学長 封孝倫	中国
2010.11.10	フライブルク大学 国際センター副センター長アジア担当 ティッシャー氏	ドイツ
2010.11.26	ブラビジャヤ大学 評議会メンバー	インドネシア
2010.11.30	ワット・ポー小学校 校長 プン・キムチェン氏	カンボジア
2010.12.01	台湾資源再生協会 理事長 張先生 名誉理事長 蔡先生	台湾
2010.12.03	駐広島韓国総領事館 駐広島韓国総領事 許徳行	韓国
2010.12.14	インドネシア政府財務省職員	インドネシア
2010.12.20	ブラビジャヤ大学 Dr. Liliek	インドネシア
2011.01.31	駐日韓国特別全権大使 権哲賢（クォン チョルヒョン）、 駐広島領事 文光元（ムングァンウォン）	韓国
2011.03.04	ブラビジャヤ大学 Dr. dr. Karyono Mintaroem (Dean of Medical Fac.)	インドネシア



駐日韓国特別全権大使訪問



貴州大学 常務副学長訪問



駐福岡アメリカ領事館広報担当領事による講演



JICA 獣医技術研修者訪問

6. 本学学長等の海外訪問

訪問日程	訪問先・内容（訪問者）	国・地域名
2010. 05. 14～23	日独学長会議 カイロ大学、アル・アズハル大学訪問	ドイツ エジプト
2010. 09. 20～24	山東大学、 北京師範大学 訪問	中国
2010. 11～20	重慶理工大学 70周年記念式典に参加 北京師範大学、首都師範大学を訪問	中国
2011. 2. 18～24	ウダヤナ大学	インドネシア

7. その他

(1)山口大学「国際月間」

山口大学の全学生、教職員が、大学の国際関連の各種取り組みを理解し、山口大学の活動として支援、参加することを目指して、2009年度より10月を山口大学「国際月間」に制定しました。10月を国際月間に定めた理由は、10月6日が日本の「コロンボ・プラン」加盟を記念し「国際協力の日」とされている、国連が10月16日を「世界食糧デー」、17日を「貧困撲滅のための国際デー」に定めている、10月24日は国連憲章の発効を記念した「国連デー」であることからである。

2010年の国際月間中に、山口大学学生、教職員が次の事業を実施した。

- ・10月27日（水）、山口大学国際月間「特別講演会」

在福岡アメリカ領事館広報担当領事マイケル・チャドウィック氏を講師に迎え、『Studying Abroad in America-The Value of International Exchange-米国留学についてー国際交流の大切さー』と題して講演会を開催し、一般市民を含む、計90人（学生60人、教職員23人、一般市民7人）が参加した。



【在福岡アメリカ領事館広報担当領事
マイケル・チャドウィック氏】



【学生を中心に、留学意識の高い聴講者
が多く集まった】

(2)国際協力活動推進プラットフォーム

国際協力活動に関心を有する山口大学教職員の有志が、地域を含めた国際協力活動の推進役としての役割を担う目的で、2007年11月に「国際協力活動推進プラットフォーム」を発足している。プラットフォーム会員数は、2011年3月現在で計38名となっている。発足以来、国際協力関係有識者による講演、意見交換会の開催、国際協力事業説明会の開催、会員の海外派遣(各種調査、協力活動)、研究者の招聘、会員の国際協力関係の研修参加等を行っている。

国際協力活動推進プラットフォームの2010年度の主な活動は以下のとおりである。

- ・JICAが主催する留学生フェア参加。(モンゴル)
- ・カンボジア王国基礎教育調査・教員視察受入。
- ・バングラデシュ公務員研修所への講義提供。
- ・インドシナ地域における拠点・支援大学の教育実態調査と相互交流。

- ・「ベトナム水管理技術シンポジウム」開催。
- ・「山口大学の国際化を考えるシンポジウム」協力。

(3)国際会議、国際シンポジウムの開催

山口大学の教員・研究者が海外の大学を訪問した海外で開催される各種学会・シンポジウム等に参加するばかりでなく、海外の研究者が参加する国際シンポジウム等を、山口大学が中心となって大学や周辺地域において開催する機会が年々増えてきている。2010年度においては次表のとおり2件の国際シンポジウムが開催された。

国際シンポジウム等開催状況（2010年度）

	名称	期日
1	3都市3大学国際シンポジウム ～環境保護と持続可能な発展～	10/13（水）
2	時間学国際シンポジウム「体内時計と健康社会」	12/10（金）

(4)政府開発援助（ODA）との連携

山口大学では、「国際協力銀行」（ODA担当部門は、2008年10月に「国際協力機構（JICA）」と統合した。）との間で、2004年5月7日に「国際協力銀行と山口大学との海外経済協力分野に関する協力協定書」を締結し、また教育学部、経済学部がJICA（中国国際センター）との間で2006年3月27日に「JICA中国国際センターと山口大学との連携協力覚書」を締結している。（※これらは「独立行政法人国際協力機構と山口大学との間の連携協定」に1本化し、本学学長とJICA理事長の間で2010年6月1日に署名・締結された。）

こうしたODA実施機関との連携も踏まえ、山口大学は現在まで以下のとおりODA事業の実施に協力してきており、2010年度における実績は以下のとおりである。

- ・無償資金協力による留学生受入(JDSプログラム)：バングラデシュより2名（経済学研究科公共管理コース）。2002年以降毎年JDSプログラムによる留学生を受入、現在までにバングラデシュから22名、インドネシアから3名、フィリピン1名の計26名受入れている。（在学学生を含む。）
- ・有償資金協力（円借款）による留学生受入：理工学研究科では、ダブル・ディグリーを基本とするLinkage Programで、インドネシアから3名を受け入れた。本制度による受入は2007年度に開始され、2007年度3名、2008年度2名の計8名を受け入れている。（在学学生を含む。）なお、前項公共管理コースでは、2010年度にインドネシアからのRegular Program（2年間の修士コースへの留学）による留学生2名を受け入れた。

- ・研修員受入：農学部において、日系研修員(ブラジル9ヶ月)、長期研修員(タンザニア)、短期研修員(バングラデシュ、2名)。
- ・JICA 協力授業：経済学部において「国際協力論」を開講。JICA より職員、専門家経験者、協力隊帰国隊員の講師派遣。本授業は2006年度から開講している。
- ・JICA 後援イベント：山口大学国際シンポジウム。
- ・青年海外協力隊：学生を対象とする特別募集説明会の開催、協力隊募集ポスターの掲示。自主活動ルームコーディネーター、国際戦略室教員による希望学生指導。

(5) ODA 事業との連携実績

①留学生受け入れ

プロジェクト	受入学部・研究科	対象国・地域
○人材育成支援無償（JDS）による留学生の受入	経済学研究科	バングラデシュ
○有償資金協力（円借款）による留学生の受入		
・高等教育基金借款事業（Ⅲ）	工学部	マレーシア
・国立イスラム大学	医学系研究科	インドネシア
・高等人材開発事業（Ⅲ）	理工学研究科	インドネシア

②技術協力プロジェクト

プロジェクト	形態	分野	対象国・地域
カンボジア日本人材開発センター（H16年4月1日～H21年3月31日）	技術協力	民間セクター開発	カンボジア
ラオス日本人材開発センター(2)ビジネス分野活動等支援（第1年次）（H20年12月～H21年9月）	技術協力	民間セクター開発	ラオス
天然ゴム産業の振興と金融機能に係る提案型調査（H19年度）	円借款	民間セクター開発	カンボジア
貴州省における人材育成プログラム開発に係る提案型調査	円借款	人材育成	中国
東ティモール大学工学部能力向上プロジェクトへの協力	技術協力	人材育成	東ティモール

③ 専門家派遣

プロジェクト	形態	派遣期間	対象国・地域
個別専門家（初中等教育計画）	長期	2005年1月～2007年1月	フィリピン
理数科教員養成（生物教育）	短期	2005年8月～9月	ラオス
経済法（企業関連法）整備支援終了時評価調査	短期	2007年11月～12月	中国
法制度整備支援基礎情報収集・確認調査	短期	2009年1月～2月	カラオス
民間セクター振興プログラム	短期	2008年3月	カンボジア
持続可能な地域観光振興	短期	2008年4月～5月	ドミニカ
平成18年度 円借款事業事後評価業務	短期		中国
東ティモール大学工学部能力向上プログラム詳細計画策定調査	短期	2010年10月 2011年3月	東ティモール
タンザニア国灌漑農業技術普及支援体制強化計画運営指導調査	短期	2011年2月	タンザニア

④研修員受入

コース名	形態	受入期間	国・地域名
花キ園芸	個別	1996年3月～12月	ケニア
地震観測システム	個別	1996年12月～1997年3月	トルコ
地震解析	個別	1996年12月～1997年3月	トルコ
環境工学	個別	1997年3月～7月	インドネシア
地震観測システム	個別	1998年3月～5月	トルコ
獣医学（小型動物内視鏡）	日系個別	1998年4月～1999年4月	ブラジル
消化器内視鏡	個別	1999年1月～2月	アルゼンチン
節水灌漑	個別	1999年3月～6月	中国
看護学	日系個別	1999年4月～2000年3月	ブラジル
カロチン抽出分離	個別	1999年8月～10月	マレーシア /2、名
土地水質源管理学	個別	2001年8月～11月	ベトナム
土地資源管理	長期研修	2001年9月	ベトナム
繁殖ホルモン測定技術の応用	個別	2004年8月～9月	ベトナム
現職教員研修	集団	2005年10月～11月	フィリピン
高品質肉牛の管理と繁殖	日系個別	2009年5月～2010年2月	ブラジル
稲研究人材育成	長期研修	2009年9月～2011年8月	タンザニア
参加型農村開発	短期	2009年10月	バングラデシュ /2名

⑤ JICA 協力授業

- ・国際協力論（2007年～2010年） JICAの歩みと役割他（各年3～5コマ）経済学部
- ・国際協力概論（2007年～2010年）開発途上国の現状と課題、有償資金協力の仕組みと課題、有償資金協力の事例紹介（各年2コマ）工学部

⑥ JICA 後援イベント

山口大学国際シンポジウム 2010年7月



(6) 研究者の交流

大学の主要な活動である研究においては、十分なデータの収集、研究データの交換による研究の加速化と精度の向上は不可欠であり、毎年多くの教員、研究者が海外に派遣され、また山口大学でも多くの海外の大学教員、研究者を受け入れている。国際研究・教育ネットワークを通して、共同研究、シンポジウムの開催、授業の相互提供といった活動が行われている。

2010年度には研修目的の69人を含め、延べ644人の教員が海外に派遣され、合計53人の海外からの研究者を受け入れた。

(7) 職員の研修

①山口大学海外派遣 SD（スタッフ・ディベロップメント）研修

山口大学教育研究後援財団の支援を受け、毎年以下のとおり事務系職員を1週間程度海外に派遣し、海外の大学における管理方法、研究・教育支援体制を学ぶほか、外国語能力の向上に努めている。

- ・2005年度：2名（米国・ハワイ大学、英国・シェフィールド大学）
- ・2006年度：2名（カナダ・リジャイナ大学、ドイツ・エアランゲン大学）
- ・2007年度：2名（米国・オクラホマ大学、豪州・ニューカッスル大学）
- ・2008年度：2名（中国・山東大学及び香港中文大学）
- ・2009年度：2名（中国・山東大学）
- ・2010年度：4名（中国・山東大学、台湾・大葉大学外、インドネシア・ウダヤナ大学）

②山口大学業務英語能力向上研修

外国人留学生及び研究者の生活、教育、研究の支援を担当、または部局等の国際交流を担当できる事務職員の育成を目指して、ネイティブスピーカー講師による英語能力向上のための会話訓練を行い、外国人対応の業務遂行に必要とされるコミュニケーション能力の向上を図ることを目的とした英語能力向上研修を、2010年度から実施した。

2010年度は19名が本研修に参加した。

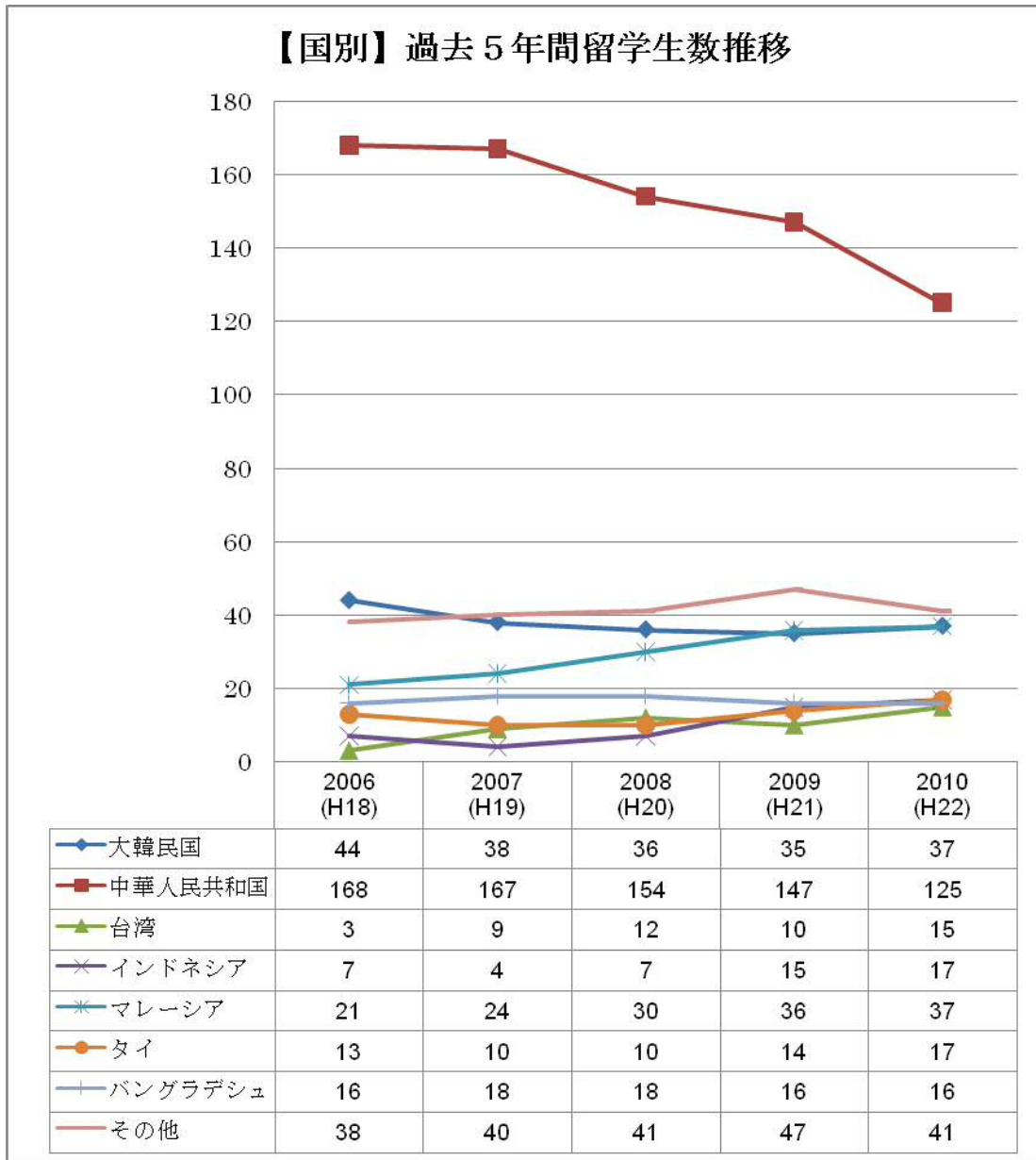
(8) 学内の国際化推進体制の整備

国際化を推進するため、諸手続（外国人留学生・研究者の渡日後の各種生活支援）のワンストップサービスを提供する「外国人留学生・外国人研究者サポートオフィス」を、吉田地区において2010年12月から試行した。

(9) 留学生の促進策

留学生への経済的支援を図るため、山口大学教育研究後援財団の支援を受けて外国人留学生奨学事業の創設を行った。

(参考) 出身国・地域別留学生数の推移



(参考) 学術交流協定に基づく交換留学生数

学術交流協定に基づく交換留学生(2011.3.31現在)

エリア区分	国・地域	協定校	協定分類	協定で定める 交換留学生数の 上限(1年間)	交換留学に 係る特記事項	交換留学生数										合計	
						H18		H19		H20		H21		H22			
						派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入		
アジア	インドネシア	ウダナヤ大学	大学間	3					1							1	
	韓国	仁荷大学校	大学間	15			1	12	13	2	12	1	15	14			70
		公州大学校	大学間	5				2	1	2		2		2			11
		韓国外国語大学校	大学間	5				4	3		3		4		4		18
		群山大学校	大学間	5				5	4		4		2		1		16
		慶尚大学校	大学間	5				1									1
		昌原大学校	大学間	8	*											3	3
		釜山大学校 師範学部	教育学部	3													0
	タイ	シーナカリンウィロート大学	大学間	5									5		5		10
		コンケン大学	大学間	5									3		5		8
		カセサート大学	大学間	5				1				1					2
		チェンマイ大学	大学間	5													0
		ソクラ王子大学	大学間	2													0
		キングモンクット工科大学トンプリ生物資源工学部	農学部	2								1		1		1	3
	中国	山東大学	大学間	8			1	4	3	2	4	2	4		4		24
		北京師範大学	大学間	5			2	2	1	2	2	2	1		1		15
		武漢理工大	大学間	5				3	5		5		5		5		23
		貴州大学	大学間	4							4		4		4		12
		重慶理工大	大学間	5		重慶理工大 工学部- 山口大学工学部間											0
		中国人民大学経済学院	経済学部	4													0
	台湾	国立中興大学	大学間	3			3		1	4	1	2	1	1		1	14
		静宜大学	大学間	5									2		2		4
		東海大学	大学間	5									2		2		4
		逢甲大学	大学間	5													0
		大葉大学	大学間	5									3		4		7
		国立台湾大学 医学院	医学部	10													0
		ベトナム	ハノイ農科大学	農学部	2												
ハノイ理工科大学 応用数学・情報科学部	理学部		5													0	
ヨーロッパ	ウクライナ	イヴァン・フランク記念リヴィウ国立大学	教育学部	2						1						1	
	イギリス	シェフィールド大学	大学間	2		シェフィールド大学- 山口大学教育学部間										0	
		UCL	大学間	1		UCL工学部- 山口大学工学部間			1			1				2	
		ヨーク大学 経済学部及び関連領域学部	経済学部	4													0
	セントラル・ランカシャー大学	教育・工学部	6	**					2	3	4	2		2		13	
ドイツ	エアランゲン・ニュルンベルグ大学	大学間	4			4	1	2	1	4	1	4	1	6	1	25	
北米	アメリカ合衆国	オクラホマ大学	大学間	14	***		3	2	5	5	6	2	4	1	4	1	33
	カナダ	リジャイナ大学	大学間	3			3	1				1			1	6	
南米	ブラジル	パウリスタ総合大学	理学部	2												0	
オセアニア	オーストラリア	ニューカッスル大学	大学間	3		ニューカッスル大学 工学部- 山口大学工学部間			1		1					2	
		キャンベラ大学	教育学部	2											1	1	
合計				187			17	38	12	43	19	49	19	58	10	64	329

* うち3名は山口大学(工)-昌原大学海洋プラント人材開発センター(HOPE)の交換留学生数
 ** セントラル・ランカシャー大学内訳: 教育学部(3)+工学部(3)=6
 *** オクラホマ大学内訳: 工学部(3)+人文学部(2)+医学部(5)+経済学部(2)+教育学部(2)=14

第2章 2010年度の留学生部門の活動

1. 日本語・日本文化短期研修（サマープログラム）の開催

本年7月12日から8月6日までの約1ヶ月間、台湾・中国・韓国・英国・マレーシアの5カ国・地域から44名の学生を迎え、山口大学日本語・日本文化サマープログラムを開催しました。

プログラムの目的は次の3点です。①山口大学の留学生数を増やす。②日本語・日本文化への理解を深める。③参加者の日本語でのコミュニケーション能力を高める。

特に、このプログラムでは日本語を使ってコミュニケーション能力を高めるために下記のような活動を取り入れました。

- ①地域の方々の協力を得て、生の日本語に触れる機会を提供しました。（市場調査、小学校訪問、日本料理教室、美術館訪問、NHK訪問、茶道・華道教室、マツダ自動車工場見学、市内見学、ホームステイ等）
- ②日本語教師以外の大学の教員による多数のミニレクチャーを開催し、大学の授業を体験してもらうことができました。（上級クラス）
- ③各クラス（10人～12人）に3人のチューターを配属しました。チューターに対する参加者の評価は極めて高く、参加者もチューターも国際交流の真の意義を認識し相互理解に対する意欲を深めていました。また、参加者の母国の大学でこのプログラム内容が高く評価され、いくつかの大学では既に単位認定されたという報告を受けました。



2. 山口大学・中国山東大学・韓国公州大学校 3大学学生交流

平成22年10月24日（日）～11月1日（月）の9日間、吉田キャンパスにおいて、「山口大学 韓国公州大学校 中国山東大学3大学学生交流2010」を開催し、公州大学校および山東大学からそれぞれ学生5人と教員1人、本学から学生約25人と教職員3人の、合わせて約40人が参加しました。



このプログラムは、学術交流協定を締結している3大学の学生が交流活動を通じて、お互いの価値観や考え方について意見交換することで、東アジアの文化理解、交流促進、平和理解への認識を高めることを目的に、毎年開催しているものです。

今回のプログラムでは、日本の歴史的建造物の見学や、各国の家庭料理を作って食する、三国料理実習などを実施し、学生たちは異文化理解を深め、お互いの大学に対する認識を新たにし、トライアングルの友情を深めました。また、「私の結婚観」というテーマでディスカッションを行い、三カ国の若者が自身の結婚に対する考えを真剣に話

し合いました。

今後、それぞれの国の歴史や文化に対する理解が深まり、今まで以上に活発な交流が期待されます。



3. 「第3回留学生就職支援フェスタ・イン・山口」と「留学生のための日本企業文化理解講座」

2009年8月と12月に開催した「留学生就職支援フェスタ・イン・山口」は、多くの企業・団体からの参画をいただき、参加留学生数も2回とも100名を越えました。本年度も「第3回留学生就職支援フェスタ・イン・山口」を2010年6月11日に開催し、70名の参加者がありました。こうした留学生就職説明会を大学単独で主催しているのは、日本の高等教育機関では山口大学のみとなっています。

また、2010年度後期の共通教育科目の一つとしてスタートした「留学生のための日本企業文化理解講座」は、日本の大学では類をみない画期的な試みとして、全国的な注目を集めています。

「第3回留学生就職支援フェスタ・イン・山口」には、パナソニック(株)、(株)トクヤマ、宇部興産(株)より企業説明並びに外国人雇用の現状説明があり、その後、各ブースに別れて個別面談がありました。日本企業で働くことを希望する留学生たちは、熱心に質問をしていました。また、山口大学からだけでなく、徳山大学、山口県立大学、下関市立大学等からも参加者があり、このフェスタが「大学コンソーシアムやまぐち」の後援をいただいている意味も見出せるようになりました。



山口大学留学生の日本企業への就職者数は、2008年度までは毎年1~2名で推移してきましたが、「留学生就職支援フェスタ・イン・山口」をスタートさせた昨年度は8名が日本企業に就職し、本年度はすでに11名の内定者を出しており、着実に成果を上げていることが数字的にも証明されています。

しかし、日本企業への就職を希望しながらも、いまだその夢を実現出来ていない学生も少なからず存在します。そうした学生は、日本企業及び日本企業文化への理解が不足している傾向にあります。加えて、日本企業の側も留学生の現状への理解不足が見受けられます。

こうした現状を踏まえて、日本企業と日本で学ぶ留学生に相互理解を深めてもらおうと企画されたのが、「留学生のための日本企業文化理解講座」です。本年度後期からスタートした授業の講師陣には、(株)帝国ホテル、ヤフー(株)、ベネトン・ジャパン(株)、東洋証券(株)、パナソニック(株)等の日本を代表するブランド企業から、東洋鋼鈑(株)、宇部興産(株)、東ソー(株)、(株)KRY山口放送等の地元優良企業が名を連ね、毎回

バラエティーに富んだ講義が為されています。これにより相互理解が深まり、内定率がアップすることが期待できます。受講学生数は、留学生が 50 名、日本人学生の聴講が 20 名程度です。日本人学生と留学生の相互理解の場となるという思わぬ副産物も生まれています。

上記の二つの試みに加えて、来年度から留学生の日本語教育の中に、「ビジネス日本語」が加わります。これをもって、山口大学の留学生への日本における就職支援体制の大枠は完成すると考えています。

4.各学部からのニュース

(1)インドネシア・ウダヤナ大学との国際連携による衛星リモートセンシング人材育成事業 (理工学研究科)

理工学研究科はインドネシアのウダヤナ大学と連携し、衛星リモートセンシング人材育成事業を 2009 年から実施しています。この事業は、衛星リモートセンシングデータの利用を通じて、衛星データの知識と利用技術を持った人材を育成し、宇宙利用技術を普及、促進させることを目的としています。



事業の内容は、衛星リモートセンシングデータの解析、アーカイブ作成、地球環境問題、防災、植生、海洋などへの応用分野での教育、研究です。2010 年からは遠隔授業システムを利用し両大学の共同授業が始まりました。授業科目は、「宇宙工学・衛星リモートセンシング特論」、「デジタル映像処理特論」、「自然災害特論」、「空間情報学特論」、「環境流体力学特論」、「環境リモートセンシング特論」、「海洋・大気力学特論」、「気候変動特論」、「陸域・水域・植生保全特論」、「沿岸・湖水環境特論」を開講しています。

(2)外国人留学生のための特別支援プログラム 2 年目スタート (人文学部)

昨年度は国際化推進事業の一環として、交換留学生や大学院進学を目的とした研究生のための特別支援プログラムを実施しましたが、今年度は人文学部の教育研究活性化経費により同プログラムの 2 年目を実施しています。外部講師の協力を得て、9 月から同プログラムを週 6 コマ先行スタートさせ、10 月からは専門日本語補講と組み合わせることにより、週 12 コマの授業を実施しています。「聴くトレーニング」「読むトレーニング」「書くトレーニング」「話すトレーニング」と日本語の 4 技能を補強する内容です。

昨年度と異なるのは、「日本語の勉強室」を設け、日本語教育能力検定試験に合格した人文学部の原菜月さんにチューデント・アシスタントお願いして留学生の弱点補強をしていることです。また、日本語教師を目指す留学生や日本人のための「日本語教師養成講

座」を新設したところ、好評を博しています。これは、担当の木村直美先生の熱意と功績によるところが大きいものと考えられます。

このプログラムを通して、交換留学生や研究生が大学の専門の授業に日本人学生と肩を並べて参加できるように、また、留学生が疎外感を持たれることがないように、大学の中にしっかりした居場所が確保できるようにしていきたいと思います。

このプログラムには、経済学部や教育学部の留学生も参加しています。



(写真は、家根橋伸子先生のタイと中国の交換学生の多いクラスの授業風景。)

第3章 2010年度の学術研究部門の国際交流活動

1. 独立行政法人日本学術振興会助成

(1) アジア研究教育拠点事業

独立行政法人日本学術振興会が実施する、日本とアジア諸国の研究拠点機関をつなぐ持続的な協力関係を確立することにより、世界的水準の研究教育拠点の構築と若手研究者の養成を目的とした事業。

【研究課題】微生物の潜在能力開発と次世代発酵技術の構築

【研究期間】2008年度～2012年度

【山口大学中心実施部局】大学院医学系研究科

【山口大学担当教員】山田守（大学院医学系研究科（農学）、教授）他11名

【相手方機関名（国・地域名）】コンケン大学 [(タイ側) 拠点機関]、ブラパ大学、チェンマイ大学、チュラロンコン大学、カセサート大学、モンクット王工科大学トンプリ校、モンクット王技術大学ラドクラバング校、メイジョ大学、マヒドン大学、ナレスアン大学、ソクラ王子大学、パヤオ大学、シーナカリンウィロット大学、タマサート大学、ウボンラチャタニ大学、ラジャマンガラ工科大学イサン校、遺伝子工学・バイオテック国立研究所、タイ科学技術研究所、バイオテックカルチャーコレクション、農業研究開発機構（以上全てタイ）

【事業概要】

日本・ベトナムについては日本学術振興会から予算を得て、タイ・ラオスについてはタイ国家研究評議会（NRCT）からマッチングファンドを得て、日本、タイ、ベトナム、ラオスの4カ国アジア研究教育拠点事業を実施する。先導のJSPS-NRCT 拠点大学交流事業（1998年度～2007年度）の実績に基づいて、本事業はタイ隣国を加えて広域に展開し、先端的分野を創成させるために実績・評価の高い耐熱性微生物発酵分野に特化して遂行する。日本とタイから多数の大学、ベトナム南部の主要な4大学及び1研究所、ラオス唯一の国立大学等の研究者が参加し、若手研究者の実践的教育を含め発酵分野における世界的水準の交流拠点を目指す。そのために積極的な共同研究や研究者交流に加え、セミナーやシンポジウム等を頻繁に開催する。

【得られた成果】

2010年度は、これまでとほぼ同規模の研究協力体制で本拠点事業を実施した。参加機関数や参加者数は、日本の26研究機関68人、タイの20研究機関73人、ベトナムの5研究機関13人、ラオスの1研究機関8人であった。また、54件の共同研究を実施した。そのうち、日本とタイとの共同研究を46件、日本、タイ、ベトナム、ラオスの4カ国共同研究を8件実施した。

ベトナムやラオスとの共同研究促進を目指して、第3回サテライトセミナーをベトナムのホーチミンで開催し、第3回ワークショップを開催した。また、参加者全員の交流および情報交換の場となり、全体の研究発表の場として第2回ジョイントセミナーをタイのコンケンで開催した。さらに、若手研究者養成のための事業として、第3回若手研究者セミ

ナーを山口市で開催した。

(2) 若手研究者交流支援事業

独立行政法人日本学術振興会が実施する、アジアを中心とした国々の大学院生（博士課程、修士課程）やポストドク等の若手研究者を日本の大学等学術研究機関において受け入れ、研究に従事する機会を提供する事業。

【研究課題】 東南アジア若手研究者との熱帯性環境微生物資源の共同開発研究

【研究期間】 2009年10月15日～2010年9月30日

【山口大学実施部局】 大学院医学系研究科、大学院理工学研究科、農学部

【山口大学担当教員】 山田守（大学院医学系研究科（農学）、教授）他5名

【交流相手機関（国・地域名）】 チェンマイ大学理学部、カセサート大学農工学部・理学部、コンケン大学工学部、マヒドン大学理学部、ソククラ王子大学農工学部、シーナカリンウイロート大学医学部、スラナリー工科大学理学部、ウボンラチャタニ大学理学部、ラジャマンガラ大学理学部、スアン スナンタ ラジャパット大学理工学部（以上全てタイ）、熱帯生物研究所、カントー大学生命工学研究開発センター（以上全てベトナム）、ラオス国立大学理学部（ラオス）、ブラビジャヤ大学農学部（インドネシア）

【事業概要】

- ・若手教員の受け入れ.....2010年度は、本事業によりタイ等より14名の若手研究者を受け入れ、本学を含む7機関10名の各受け入れ研究者のもとでそれぞれ異なる研究に従事した。なお、本学では、3名の教員が7名の若手研究者を受け入れた。
- ・若手研究者セミナーへの参加.....2008年度から国内や東アジアの若手研究者育成の一環として、JSPSアジア研究教育拠点事業による若手研究者セミナーを毎年開催している。本セミナーには、タイ、ベトナム、ラオスからの若手研究者、山口大学の留学生そして日本人博士・修士学生を含む多数の若手研究者が参加している。本事業から、2010年9月4-5日開催の第3回若手研究者セミナー（山口市）に他機関受入の研究者を含む5名が参加し、交流を行った。
- ・現地でのセミナーの開催.....2010年度は以下のようにセミナーを開催し、本事業参加者による研究発表および事業代表者による本事業の紹介を行った。

第3回現地セミナー

開催日時：2010年6月21日

開催地：ラオス国立大学（ビエンチャン、ラオス）

発表者：2名；参加者：9名

第4回現地セミナー

開催日時：2010年6月22日

開催地：コンケン大学（コンケン、タイ）

発表者：5名；参加者：11名

第5回現地セミナー

開催日時：2010年6月25日

開催地：ブラビジャヤ大学（マラン、インドネシア）

発表者：2名；参加者：約30名

- ・日本からの研究者派遣……2010年6月20日から27日まで、山田教授が研究進展の把握、研究環境の視察、中間研究報告会実施のためにラオス国立大学理学部（ラオス）、コンケン大学工学部（タイ）、ブラビジャヤ大学理学部（インドネシア）を訪問した。

【得られた成果】

独立行政法人日本学術振興会より助成を受けたアジア研究教育拠点事業「微生物の潜在能力開発と次世代発酵技術の構築」の実施によって培われた人的ネットワーク及び共同研究成果等をもとに、現拠点事業では不可能な博士課程学生などの若手研究者支援によって、タイ国を中心とした東アジアの若手研究者の研究能力と研究活動を維持し発展させることができた。

(3) 二国間交流事業 「アメリカ合衆国 NSF との共同研究」

独立行政法人日本学術振興会が実施する、海外の学術振興機関（対応機関）と学術の国際協力に関する合意に基づき行う事業。個々の研究者交流を発展させた二国間の研究チームの持続的ネットワーク形成を目指し、日本の大学等の優れた研究者（若手研究者を含む）が相手国の研究者と協力して行う共同研究・セミナーの実施に要する経費の支援を行う。

【研究課題】微視的アプローチによるフレッシュコンクリートの性状解明と数値解析法の開発

【期間】2009年4月1日～2011年3月31日

【山口大学実施部局】大学院理工学研究科（工学）

【山口大学担当教員】李柱国（准教授）

【相手方機関名（国名）】バージニア工科大学、国立標準技術研究所（以上全てアメリカ合衆国）

【相手方参加者】Linbing Wang（バージニア工科大学、教授【代表者】）、Nicos S. Martys（国立標準技術研究所、Physicist）

【事業概要】

フレッシュコンクリートの精密・汎用なレオロジーモデルを構築し、流動・分離の数値解析法を開発するための基礎研究として、その粒状体性質、せん断と振動下における固体粒子と間隙水の挙動を解明することを目標に、米国のバージニア工科大学および国立標準技術研究所との共同研究を行った。

交流の詳細は以下のとおり。

氏名・所属	期 間 (現地到着日～現地出発日)	主たる訪問先
李 柱国・山口大学	2009年5月21日～30日	バージニア工科大学
李 柱国・山口大学	2009年9月10日～24日	バージニア工科大学、米国国立標準技術研究所
李 柱国・山口大学	2010年3月21日～4月4日	米国国立標準技術研究所、シカゴ (ACI Convention と技術委員会への参加)
三島直生・三重大学	2010年3月26日～30日	
李 柱国・山口大学	2010年9月26日～10月1日	米国国立標準技術研究所
Li Jieyong・山口大学	2010年9月26日～10月1日	モントリオール(国際会議の参加)
李 柱国・山口大学	2010年10月25日～31日	モントリオール(国際会議の参加)
李 柱国・山口大学	2011年3月21日～31日	バージニア工科大学、米国国立標準技術研究所、ピッツバーグ(ACI Convention と技術委員会への参加)

【得られた成果】

本事業によるアメリカ合衆国研究者との共同研究実施により、相手方研究者が保有する装置の利用及び相手方研究者が独自で開発した技術や解析方法を習得することができた。また、粒子集合体の粒子形状評価法の開発、粒子移動抵抗のメカニズムの解明および間隙水圧・水上昇挙動の予測方法の開発を遂行した。コンクリートの施工性能最適化技術を開発するための基礎研究として位置づけられる本研究の成果は、地球温暖化対策の一つとして求められている建設業の環境負荷の削減に大きく貢献できると考えられる。

(4) 外国人特別研究員

独立行政法人日本学術振興会が実施する、諸外国の若手研究者に対し、日本の大学等において日本側受入研究者の指導のもとに共同して研究に従事する機会を提供する事業。個々の外国人特別研究員の研究の進展を援助するとともに日本及び諸外国における学術の進展に資することを目的とする。

【研究課題】 チタノシリケートおよびカルシウムリン酸塩マイクロポーラス・ナノ結晶の構造評価

【期間】 2010年11月28日～2012年11月27日

【山口大学実施部局】 大学院理工学研究科（工学）

【山口大学担当教員】 中山則昭（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】 ブルガリア科学アカデミー鉱物学・結晶学中央研究所

【相手方参加者】 TITORENKOVA, Rositsa Hristova（研究員）

【事業概要】

山口大学理工学研究科では、ヒートポンプ用マイクロポーラス物質の研究を10年来続けており、他方ブルガリア科学アカデミーでは、チタノシリケートやカルシウムリン酸塩な

どの新しいマイクロポーラス物質の研究を行っている。この度、TITORENKOVA, Rositsa Hristova 研究員を受け入れて、TEM 法、IR-Raman 分光法などによる共同研究を推進することにより、ヒートポンプ用マイクロポーラス物質に関する新しい知見を得る。

【得られた成果】

ブルガリア科学アカデミーとの共同研究を実施することにより、日本におけるヒートポンプ用マイクロポーラス物質に関する研究を進展させ、また、将来にわたる両国の友好的な学術交流を確立することができた。

(5) 論文博士号取得希望者に対する支援事業

独立行政法人日本学術振興会が実施する、アジア・アフリカ諸国の優れた研究者が、日本の大学において大学院の課程によらず論文提出によって博士の学位を取得できるように支援する事業。

【研究課題】 モンゴル在来牛の卵母細胞の発育とマイコトキシン汚染との関連性に関する研究

【期間】 2009 年度～2012 年度

【山口大学実施部局】 大学院連合獣医学研究科

【山口大学担当教員】 音井威重（教授）

【相手方機関名（国名）】 畜産研究所畜産部（モンゴル）

【相手方参加者】 SAMBUU, Rentsenkhand（主任研究員）

【事業概要】

2004 年 9 月から 2005 年 2 月まで SAMBUU 氏を日本に招へいし「受精卵のガラス化凍結保存に関する研究」について共同研究を行ったことを契機に、継続して「体外受精技術を活用したモンゴル在来牛の改良に関する研究」を共同で実施している。SAMBUU 氏はモンゴル国内でも多数の研究成果を蓄積しており、今後の研究を指導することにより SAMBUU 氏の博士号学位取得に向けた支援を行う。

【得られた成果】

事業最終年度（2012 年度）の論文完成に向けて、2010 年度は SAMBUU 氏を山口大学に 90 日間受入れ、また、音井教授が 10 日間モンゴルを訪問し、研究指導を行った。

(6) 先端科学シンポジウム

独立行政法人日本学術振興会が実施する、新進気鋭の若手研究者（45 歳以下）による異分野間での最先端科学についての討議を通じて、新しい学問領域の開拓に貢献するとともに、次世代のリーダーを育成することを目的とした事業。

【シンポジウム名】 第 7 回日独先端科学（JGFoS）シンポジウム

【期間】 2010 年 11 月 12 日（金）～11 月 14 日（日）

【場所】 Hotel Steigenberger Sanssouci（ドイツ・ポツダム）

【山口大学担当教員】 真田篤志（大学院理工学研究科（工学）、准教授）

【事業概要と得られた成果】

第7回日独先端科学（JGFoS）シンポジウムに出席し、Physics/Astrophysics 分野のセッションで、イントロダクトリースピーカーとして Electromagnetic Metamaterials に関する講演をおこなった。メタマテリアルの概念や技術に関して、医学、化学、数学、経済学、社会学など非常に幅広い分野の先端研究者からの質問や貴重な意見が得られ新たな学術的見地や展望が得られるとともに、これらの研究者との交流が深まった。

(7) 特定国派遣研究者

独立行政法人日本学術振興会が実施する、海外の学術振興機関（対応機関）との間で合意した覚書等に基づき、日本の研究者とそれらの国々の研究者との交流を推進するため実施する事業。

【研究課題】 Biopolymers from Lactic Acid Bacteria: Novel applications in foods

【期間】 2010年9月4日～9月20日

【山口大学実施部局】 農学部

【山口大学受入教員】 松下一信（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】 ラプラタ国立大学理学部（アルゼンチン）

【相手方参加者】 ABRAHAM, ANALIA Graciela（准教授）

【事業概要】

ABRAHAM, ANALIA Graciela 准教授は、ラプラタ国立大学で複合微生物群についての研究を行っており、特に、ケフィア種菌から分離された乳酸菌と酵母菌に焦点を置いた研究を行っているが、ケフィアに存在する酢酸菌の特性については研究を行っていない。他方、山口大学松下研究室では、酢酸菌の特性についての知識と研究実績を持っていることから、今回の ABRAHAM, ANALIA Graciela 准教授の訪問により、山口大学松下研究室が持つ酢酸菌の分離及び識別技術を、ラプラタ国立大学がケフィアから採取した菌株へ適用するための共同研究を行う。また、松下研究室は酢酸菌の育成環境に関する豊富な研究実績を持つことから、今回の研究交流により、乳酸菌、酢酸及びそれらの物理化学的特性による多糖類の生成についての知識を両者が共有することが可能になる。

【得られた成果】

ラプラタ国立大学 ABRAHAM, ANALIA Graciela 研究室と山口大学松下研究室は、共に、多糖類の生成のような微生物共通の特性に着目して研究を行っており、アルゼンチン側は乳酸菌による、また日本側は酢酸菌による、エキソ多糖類の生成に関する研究実績を持つ。両者による個別の研究実績は、相互に補完できる内容であり、今回の研究訪問は、研究領域を同じとしながらも異なる側面からアプローチを行ってきた両者間で、初めて共同で研究を行う貴重な機会となった。

2. 文部科学省助成

(1) 科学技術振興調整費「国際共同研究の推進」

文部科学省が運用を行う、総合科学技術会議の方針に沿って科学技術の振興に必要な重要事項の総合推進調整を行うための経費で、政府誘導型の競争的資金として活用される補助金。

「国際共同研究の推進」プロジェクトは、科学技術外交の強化の一環として、我が国の高い研究ポテンシャルを活用しつつ互恵的な国際共同研究をアジア・アフリカ諸国等と実施することを通じて、我が国のリーダーシップを発揮した国際的な科学技術コミュニティを構築するとともに、我が国とアジア・アフリカ諸国等の政府レベルでの協力関係の強化・構築を目指す事業。

【研究課題】 熱帯性環境微生物による省エネ高温発酵技術

【研究期間】 2010年度～2012年度

【山口大学実施部局】 農学部、農学部附属中高温微生物研究センター他

【山口大学担当教員】 山田守（大学院医学系研究科（農学）、教授）他3名

【相手方機関名（国名）】 カセサート大学、コンケン大学、ソクラ王子大学、タイ科学技術研究所（TISTR）、農業研究開発局（ARDA）国家研究評議会（NRCT）（以上全てタイ）

【事業概要】

ーバイオエタノール、酢酸およびバイオプラスチックの高温発酵実証試験のための基礎研究ー

本事業は、タイ国との十数年に及ぶ国際拠点事業から獲得した耐熱性微生物を活用し、タイとの共同研究によって次世代の高温発酵技術を実用化のための実証試験レベルまでに開発することを目的とする。日本側（山口大学、九州大学）の分担は高温発酵技術の基礎研究と、タイの豊富なバイオマスを用いてタイで実施される予備試験や実証試験のための支援基礎研究である。

そのうち山口大学では、代替燃料としてのバイオエタノールやバイオガスおよび工業原料としての酢酸について、高温発酵研究を実施する。なお、実証試験に必要な予備試験研究はタイの大学が分担し、実証試験研究はタイ科学技術研究所（TISTR）が分担する。

【得られた成果】

初年度である2010年度は、バイオエタノールと酢酸の高温発酵実証試験のための基礎研究について年度当初の計画に沿って着実に本事業を達成した。一方、バイオプラスチックの高温発酵実証試験のための基礎研究については、ARDAからの指摘（タイのバイオプラスチック研究が本事業申請当初に比べて大きく拡大し、同じ物質生産研究への複数支援が難しい）に基づいて、バイオプラスチックからバイオガスへと変更した。バイオガスの高温発酵実証試験のための基礎研究についても、その計画に沿って着実に本事業を達成した。

3. 独立行政法人日本学生支援機構助成

(1) 帰国外国人留学生短期研究制度

独立行政法人日本学生支援機構が実施する、留学を終え、現在自国において教育、学術研究又は行政の分野で活躍している帰国留学生に対し、日本の大学で、当該大学の研究者と共に短期研究を行う機会を提供する制度。

【研究課題】 タテハチョウ科ヒメアカタテハの蛹体色多型の神経内分泌調整機構

【期日】 2010年10月3日～2010年12月2日

【山口大学実施部局】 大学院医学系研究科（理学）

【山口大学担当教員】 山中明（准教授）

【相手方機関名（国・地域名）】 バングラデシュ核エネルギー研究機構 食物・放射線生物学研究所（バングラデシュ）

【相手方参加者】 Abu Taher Md. Fayesui Islam（アブ タヘル モハメド ファズール イスラム）（主任研究員）

【事業概要】

日本での留学を終え帰国した Abu Taher Md. Fayesui Islam 氏は、食物・放射線生物学研究所（バングラデシュ）の主任研究員として、衛生害虫のハエ駆除プロジェクトを統括し、また、チョウ・ガ類の同定技術を活かした生態調査を新規に立ち上げた。山口大学山中明准教授は、受入研究者として、Abu Taher Md. Fayesui Islam 氏に対しハエ駆除プロジェクトの現地視察及び助言・物品援助を行い、共同研究成果として学術論文 4 編とバングラデシュ国初のチョウ図鑑を発刊し、現在第 2 巻の準備中である。

バングラデシュの自然環境を活かした独創的な研究として、チョウに特有な表現型可塑性の研究を行うためには、チョウの大量飼育技術並びに表現型可塑性に関する知識・理解・実験手法の習得が不可欠である。大量飼育技術とチョウの表現型可塑性の実際を体験し、習得するには 2 ヶ月間（3 世代の飼育期間）の直接指導が必要であるため、この度の研究滞在中で上記指導を行った。

【得られた成果】

今回の研究滞在中で Abu Taher Md. Fayesui Islam 氏が身に付けた実験解剖学的研究手法は、バングラデシュにおいて、高価な先端機器を用いることなくチョウの持つ表現型可塑性を生理学的な側面から研究することを可能にするものである。バングラデシュは亜熱帯地域であるため、一年中チョウの研究ができる恵まれた環境にあり、この度の研究滞在中により実験解剖学的研究手法を身に付けた Abu Taher Md. Fayesui Islam 氏は、バングラデシュにおいてチョウの内分泌学の第一人者となることが期待される。また、チョウを通じてバングラデシュの児童生徒学生に自国の生物の多様性のすばらしさを伝え、教育現場に還元することが期待される。

(2) 帰国外国人留学生研究指導事業

独立行政法人日本学生支援機構が実施する、留学を終え自国の大学や学術研究機関で教育、研究活動に従事している帰国留学生に対し、日本における留学時の指導教員を現地に派遣し、研究指導等を実施する事業。

【研究課題】細胞性粘菌の有効利用に向けての細胞生物学的研究

【期日】2010年6月12日～6月18日

【山口大学実施部局】大学院医学系研究科（理学）

【山口大学担当教員】祐村恵彦（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】バングラデシュ核エネルギー研究機構 食物・放射線生物学研究所（バングラデシュ）

【相手国側参加者】Md. Kamruzzaman Pramanik（エムディ カムルジャマン プラマニック）（シニアサイエンスオフィサー）

【事業概要】

2009年9月末に留学を終えて帰国し、バングラデシュの所属研究所で新たな研究室に配属された帰国留学生に対し、特に高度な顕微鏡や施設等がないバングラデシュの研究環境の中で、安価に顕微鏡や電気泳動装置を組み立てる方法などの指導を行う。また、熱帯地域特有の性質を利用した研究課題などを相談しながら研究指導を行い、さらに、土壌からの高熱生の粘菌の単離などの実地指導を行う。

【得られた成果】

バングラデシュの所属研究所での研究室のセットアップを手助けして研究が開始できる環境を作り、また、熱帯地域特有の性質を利用した研究課題などを見つけることで、本人の継続的な研究を可能にする環境を整えた。このことにより、不十分な研究環境であっても、社会に貢献できる研究が可能であることを示すことができた。

また今回の研究指導は、バングラデシュ国の研究レベルの向上に貢献し、さらに日本との共同研究を進めることで、両国の国際連携を確立することができたと言える。

4. 山口大学／財団法人山口大学教育研究後援財団助成

(1) 中国短期派遣研究者プログラム

中国国内の大学に山口大学の研究者を短期間派遣することにより、中国内の大学との学術交流の促進、山口大学の学術交流の発展を図ることを目的とした事業。

① 【研究課題】貴州省苗族トン族の観光化による生活変化研究

【期間】2010年2月20日～3月20日

【山口大学実施部局】人文学部

【山口大学担当教員】坪郷英彦（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】貴州大学（中国）

【相手方参加者】王良範（西南少数民族語言文化研究所、所長教授）、王晓梅（日本語学院、教授）

【事業概要と得られた成果】

貴州大学の協力を得て、少数民族である苗族トン族の居住習俗調査や関連資料の収集を行い、苗族トン族の観光化による生活変化を記録するとともに、貴州大学研究者との研究交流を深める等の成果をあげた。

②【研究課題】中国における地域密着型の環境・社会経済システムに関する研究

【期間】 2010年11月1日～18日

【山口大学実施部局】 経済学部

【山口大学担当教員】 陳禮俊（教授）

【相手方機関名（国名）】 復旦大学（中国）、陝西師範大学（中国）、貴州大学（中国）

【相手方参加者】 復旦大学・経済学院・副教授・陳雲（中国）、陝西師範大学・農村発展研究中心・教授・方蘭（中国）、貴州大学・法学院・教授・余貴忠

【事業概要と得られた成果】

中国の地域密着型の環境社会システムを調査するため、文献資料調査、実地調査を行うことにより、雲南・貴州地域の少数民族の生態文化調査報告書や郷土知識調査報告書等、日本では入手が困難な文献を入手し、これらの調査に関わった研究者との交流を行う等の成果をあげた。

③【研究課題】澧州大鼓による民衆啓蒙活動の研究

【期間】 2010年12月19日～12月28日

【山口大学実施部局】 大学院東アジア研究科

【山口大学担当教員】 阿部泰記（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】 武漢理工大学（中国）

【相手方参加者】 楊劍瑞（外国語学院・教授）

【事業概要と得られた成果】

武漢理工大学の協力を得て、澧州大鼓による民衆啓蒙活動の研究のため、現地にて大鼓上演を調査・記録した結果、中国で歴代政府や文化人が行ってきた「寓教於樂」（樂を通じて人を教育する）という礼樂思想がこの芸能活動にも継承されていることを明らかにした。

(2) 研究者招へい事業

中国内の学術交流協定校に勤務する研究者を短期間招へいすることにより、共同研究に関する協議等を通じて、中国内の学術交流協定校との交流活動の促進、学術研究の充実を図ることを目的とした事業。

①【研究課題】中国・日本における産学官研究体制についての比較研究

【期日】 2010年10月11日～10月20日

【山口大学実施部局】 大学教育機構 大学教育センター

【山口大学担当教員】 何曉毅（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】山東大学（中国）

【相手方参加者】劉志業（高等教育研究センター、副センター長・副教授）

【事業概要と得られた成果】

山東大学劉志業副教授を招へいし、中国・日本における産学官研究体制についての比較研究のため、図書館や商品資料館で資料収集を行うとともに、産学公連携・イノベーション推進機構を訪問し、産学連携の現状等についての意見交換を行うことにより、研究交流を深めることに成果をあげた。

② 【研究課題】日本語教材の IT 化及び日中共同日本語学習支援 e-ラーニングサイトの構築に関する共同研究

【期日】2011年2月8日～14日

【山口大学実施部局】大学教育機構 留学生センター

【山口大学担当教員】赤木彌生（准教授）

【相手方機関名（国・地域名）】北京師範大学（中国）

【相手方参加者】林洪（外国語学院長、日本語学科主任）

【事業概要と得られた成果】

北京師範大学林洪准教授を招へいし、日本語テキスト等 e-ラーニング教材コンテンツについての協議や作業を行うとともに、山口大学教員との情報交換を行った。この招へいにより、日本語教育に関する学術交流を深めることに成果をあげた。

③ 【研究課題】山口県文化財を用いた日本語教科書の編纂に関する研究

【期日】2011年2月28日～3月10日

【山口大学実施部局】大学院東アジア研究科

【山口大学担当教員】阿部泰記（教授）

【相手方機関名（国・地域名）】武漢理工大学（中国）

【相手方参加者】楊劍瑞（教授）

【事業概要と得られた成果】

武漢理工大学楊劍瑞教授を招へいし、山口県文化財を用いた日本語教科書の編纂に関する研究のため、山口大学図書館、山口県立図書館、山口県郷土資料館において山口県内文化財等の調査・資料収集を行い、教科書編纂に関する協議を行うことにより、研究交流を深めることに成果をあげた。

第4章 2010年度の各学部・研究科等の活動

1. 人文学部 林伸一教授他

平成22年度 人文学部教育・研究活動活性化のための戦略的プロジェクト『外国人留学生のための特別支援プログラム』 【中国，韓国，台湾，タイ他】

Project Title プロジェクト名	平成22年度 人文学部教育・研究活動活性化のための戦略的プロジェクト「外国人留学生のための特別支援プログラム」
YU Department 部局（学部科など）	人文学部
Date 期日	2010.9.1-2011.3.17
University or Institution Abroad 相手大学・施設	中国，韓国，台湾，タイなどの学術交流協定締結校
YU Participants 山大側参加者	林伸一（人文学部言語文化学科教授；とりまとめ），家根橋伸子，井内俊美，木村直美（以上，人文学部アドバイザー），原菜月（人文学部スチューデント・アシスタント），磯部佳宏（人文学部言語文化学科准教授），アラム・ジュマリ（人文学部人文社会学科教授），本田義昭（人文学部言語文化学科教授；共同企画者）など
Counterparts 相手国側参加者	中国，韓国，台湾，タイなどの交換留学生，研究生，大学院生
Travel Cost 旅費	なし。
Current Results 【当面の成果】	中国，韓国，台湾，タイなどの交換留学生，研究生，大学院生が日本語能力を向上させ，うち2名が人文科学研究科に入学した。 日本人学生1名が日本語教育能力試験に合格した。前年度合格者も含めて，日本語教育の実習授業を実施することができた。
Possibility of Future Development 【今後の発展性】	交換留学生として来た留学生がケアされることにより，山口大学大学院へ進学する可能性が増える。人文科学研究科だけでなく，教育学研究科や経済学研究科への進学にも貢献している。日本人学生との交流の機会も増え，チューター活動の内容の充実が期待される。

<p>Contents 内容</p>	<p>日本語関係の大学院を修了したレベルの留学生アドバイザーを非常勤職員として3名採用し、異文化交流を望む学生による「外国人留学生のための特別支援プログラム」を立ち上げて、人文学部授業の教育促進を図るため教育改革プログラムを実施した。また、当該年度より内容が改訂された日本留学試験、日本語能力試験の対策の教材・資料等を収集し、3年計画で山口大学人文学部独自の日本語教育システムの開発に着手した。</p>
	<p>家根橋伸子先生による中国、台湾、タイなどの交換留学生、研究生に対する総合日本語講座の授業を実施した。月曜日 4 時間、9 月から翌年 2 月まで合計 118 時間実施。</p>
	<p>井内俊美先生による中国、タイなどの交換留学生、研究生に対する専門日本語補講の授業が行われた。水・金曜日各 2 時間ずつ、10 月から翌年 1 月まで合計 56 時間実施。</p>
	<p>木村直美先生による外国人留学生のための特別クラス。日本人を含む日本語教師養成講座、日本語教育実習クラスなどが行われた。9 月から翌年 2 月まで、合計 212 時間実施。</p>



原菜月（スチューデント・アシスタント）による日本語の勉強室が行われた。日本語教育能力検定試験に合格するための勉強会も実施された。総時間数は30時間。

Inquiries

問合せ先

人文学部言語文化学科アジア言語文学講座・教授

林 伸一 TEL/FAX 083-933-5280

E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp

2. 教育学部 石井由理教授他

「国際協力活動推進プラットフォーム ワット・ボー小学校教員招聘プロジェクト」

【カンボジア】



Project Title プロジェクト名	国際協力活動推進プラットフォーム ワット・ボー小学校教員招聘プロジェクト Platform for the promotion of activities for international cooperation: Invitation of Wat Bo Primary School teachers
YU Department 部局	国際協力活動推進プラットフォーム Platform for the promotion of activities for international cooperation 教育学部 Faculty of Education
Date 期日	2010年11月26日－12月5日 26/Nov/2010－5/Dec/2010
University or Institution Abroad 相手大学・施設	ワットボー小学校(カンボジア) Wat Bo Primary School (Cambodia)
YU Participants 山大側参加者	教育学部：石井教授、和泉教授、海野教授、友定教授、高橋准教授、霜川順教授、佐伯客員准教授、西村教授（附属山口小学校長）、池田教授、阿部元教育学部教授 国際協力活動推進プラットフォーム：今津教授 Faculty of Education: Prof. Ishii, Prof. Waizumi, Prof. Unno, Prof. Tomosada, Associate Prof. Takahashi, Associate Prof. Shimokawa, Associate Prof. Saeki, Prof. Nishimua (principal of Yamaguchi Primary School affiliated to the Faculty of Education), Prof. Ikeda, Former Prof. Abe Platform: Prof. Imazu
Counterparts 相手国側参加者	ブンキムチェン校長、田中千草校長補佐、マーパーラー教諭 Principal: Pueng Kimchheng, Advisor to the principal: Tanaka Chigusa, Teacher: Ma Phala
Travel Cost 旅費	国際協力活動推進プラットフォーム Platform for the promotion of activities for international cooperation
Current Results 【当面の成果】	ワット・ボー小学校教員の教育技術向上 Improvement of educational skills of Wat Bo Primary School teachers ワット・ボー小学校との信頼関係の確立 Establishment of a cooperative relationship with Wat Bo Primary School 山口大学学生および教員の国際協力に対する意識向上 Awareness raising of Yamaguchi University students and staff towards international cooperation


<p>Possibility of Future Development 【今後の発展性】</p>	<p>ワット・ボー小学校との教育協力関係の確立 ワット・ボー小学校を足がかりとした国際教育協力活動の展開 Establishment of a cooperative relationship with Wat Bo Primary School Development of activities for international educational cooperation by the staff of the Faculty of Education</p>
<p>Contents 内容</p>	<p>ワットボー小学校教員 3 名を約 10 日間招聘し、附属山口小学校における 2 日間の見学のほか、理科、保健体育、音楽を中心とした研修を実施した。山口大学学生、職員に対しては、授業、ちゃぶ台コーホート活動等での講演を行った Invited three Wat Bo Primary School teachers and offered an opportunity for in-service teacher training at Yamaguchi Primary School affiliated to the Faculty of Education. The focus was on natural science, health and physical education and music.</p>
	<p>附属山口小学校理科の実験を参観 Science class at Yamaguchi Primary School</p>
	<p>教育学部 理科実験指導法の授業に参加 Participation in a science class at the Faculty of Education</p>
<p>Inquiries 問合せ先</p>	<p>石井由理 教育学部国際理解教育教室 083-933-5423 yuri@yamaguchi-u.ac.jp</p>

3. 教育学部 和泉研二教授他

「アジア地域における国際教育協力事業」 【カンボジア】

Project Title プロジェクト名	アジア地域における国際教育協力事業－カンボジア王国 Siem Reap 州教員研修支援のモデル構築に関する研究 Project on International Educational Cooperation in Asia: A study on the development of a model for in-service teacher training in the Province of Siem Reap, the Kingdom of Cambodia
YU Department 部局	教育学部 Faculty of Education 国際協力活動推進プラットフォーム Platform for the promotion of activities for international cooperation
Date 期日	2011年3月5日－2011年3月12日
University or Institution Abroad 相手大学・施設	1. ワットボー小学校 Wat Bo Primary School 2. シェムリアップ州初等教育教員養成学校 Siem Reap Provincial Teacher Training College 3. スピッターラ小学校 Spiter School 4. ワットチャオ小学校 Wat Cao Primary School 5. トルロビアン・宮下小学校、パックパン小学校、ササーダム群中核学校
YU Participants 山大側参加者	和泉教授、海野教授、友定教授 Prof. Waizumi, Prof. Unno, Prof. Tomosada
Counterparts 相手国側参加者	1. プンキムチェン校長 Peung Kimchheng (principal)、田中千草校長補佐 Tanaka Chigusa (Advisor to the principal)、マーパーラー教諭 Ma Phala (teacher) 2. リーブオラ校長 Leav Ora (principal)、小八重桂子青年海外協力隊員 Keiko Kobae (Japan Overseas Cooperation Volunteers)、渡辺大地海外青年協力隊員 Daichi Watanabe (Japan Overseas Cooperation Volunteers) 3. ウインバック教員 Koija Winbeck (Teacher)、リー教員 Chnstina Lie (Teacher) 4. ワットウオントン校長 (principal) 5. 各学校長 (principal)
Travel Cost 旅費	教育学部学部長裁量経費 Funded by the Dean of the Faculty of Education 国際協力活動推進プラットフォーム Platform for the promotion of activities for international cooperation
Current Results 【当面の成果】	ワットボー小学校教員の理科実験授業における観察・実験の重要性認識の向上 Improved recognition of the importance of observation and experiment-based approach in science class by Wat Bo Primary School teachers

	<p>ワットボー小学校教員の学校衛生・保険に対する意識向上 Improved recognition of the importance of school hygiene and health by Wat Bo Primary School teachers</p> <p>カンボジアにおける体育の現状の把握 Understanding of the current state of physical education in Cambodia by Yamaguchi University staff</p>
<p>Possibility of Future Development 【今後の発展性】</p>	<p>理科、保健体育分野における教員研修プログラムのモデル構築および学習者中心のモデル授業の児童に対する実施.本学学生のカンボジアへの研修旅行とワットボー小学校での授業実践体験の実施。</p> <p>Development of a model for in-service teacher training program in the fields of natural science and health and physical education and further demonstration instruction sessions at Wat Bo and other primary schools.</p> <p>Study visit and teaching experience by Yamaguchi University students at Wat Bo primary school.</p>
<p>Contents 内容</p>	<p>1) 本年度から教科となった体育を中心に、カンボジアの学校教育事情の調査 Research on the Cambodian educational situation with the emphasis on the subject of Physical Education, which was implemented as a subject this year</p> <p>2) ワット・ボー小学校において、学校保健に関する現職教員を対象とした講習会の実施 In-service training session on school health for Wat Bo teachers</p> <p>3) 国策として充実を図っている理科の模範授業の試行 Model instruction of learner-oriented science class</p>
	<p>学校保健に関する講習会</p>
	<p>課題解決型理科授業の実践</p>

	<p>体育重点校でサッカーをする児童</p>
	<p>ワットポー小学校の運動用具箱</p>
<p>Inquiries 問合せ先</p>	<p>和泉研二 教育学部 理科教育教室 tel) 933-5355 bec20@yamaguchi-u.ac.jp 石井由理 教育学部 国際理解教育教室 tel)933-5423 yuri@yamaguchi-u.ac.jp</p>


4. 教育学部 池田恵子准教授

「日英比較スポーツ史研究—スポーツ史研究に与えた日本の影響」 【イギリス】

Project Title プロジェクト名	Comparative Studies between the UK and Japan: Japanese Reflections on the History of Sport 日英比較スポーツ史研究—スポーツ史研究に与えた日本の影響
YU Department 部局	Study of Sport History, Physical Education and Health Science, Faculty of Education 教育学部保健体育教室 スポーツ史研究室 池田恵子
Date 期日	2010年9月8日
University or Institution Abroad 相手大学・施設	The International Centre for Sport History and Culture, De Montfort University, Leicester, UK 英国、ドゥ・モンフォート大学人文学部国際スポーツ史・文化研究所
YU Participants 山大側参加者	Keiko IKEDA 池田恵子
Counterparts 相手国側参加者	Professor Richard Holt, Dr. Dilwyn Porter, Dr. Jean Williams, Dr. Neil Carter 他多数
Travel Cost 旅費	Grants-in-Aid for Scientific Research by the Japan Society for the Promotion of Science 科学研究費補助金基盤研究 (C) 「国際学術ジャーナルにみるスポーツ史研究の地平に関する研究 1990-2010-」 (研究代表者 池田恵子) における研究計画「国際シンポジウムにおける方法論の比較検討」の一環として長期調査研究期間内に実施した。
Current Results 【当面の成果】	“The day included the presentation of new research that challenged pre-conceived perceptions of Japan and Asia. The symposium highlighted the process of adaptation and acculturation of Western sports since the late 19th century”. “More than 25 delegates attended and included academics from Japan, South Korea and Germany”. 旧来のアジア概念を超えた斬新な学術成果が得られた。また学術上の ML、在英日本大使館を通じて参集がよびかけられたため、英国内の研究者集団、学術分野の枠を超え、韓国、ドイツからも参加者を得、貴重な研究協議の機会となった。ドゥ・モンフォート大学の学報および国際スポーツ史・文化研究刊行物の双方にその模様は報じられ、写真も掲載された。上記英文はその一部を抜粋したもの。

<p>Possibility of Future Development 【今後の発展性】</p>	<p>First, that this Anglo-Japanese project will stimulate other academic collaborations between the two countries. Second, that this particular research topic will stimulate research in other areas of the world. Third, that the link already established by these two groups will be maintained and that it will lead to reciprocal research symposiums in the UK on the subject of sport and well-being and/or other issues. Fourth, it will lead to closer links between historians and sociologists more generally.</p> <p>It is intended to further disseminate these results not only through this seminar but also through the publication of the proceedings.</p> <p>第一に日英協力プロジェクト研究は、他の学術領域間の協力関係をも刺激する。第二に、本プロジェクト固有のテーマは、世界の他の地域や国における同様の研究を触発することにもつながる。第三に、すでに日英両国において確立した提携関係を維持し、スポーツと福祉に関する研究課題の継続、それ以外の研究テーマも加えたりサーチ・シンポジウムを、次回は英国にて開催していくことを企画中である。第四に、こうした試みにより、歴史学研究と社会学的研究がより親密な形で相互に連携する。刊行物の発行なども目指していきたい。</p>
<p>Contents 内容</p>	<p>The day included the presentation of new research that challenged pre-conceived perceptions of Japan and Asia. These had been shaped by the West's distinctly romantic and exotic view of the Asian continent, which had provided a justification for European colonialism since the 18th century. The symposium highlighted the process of adaptation and acculturation of Western sports since the late 19th century within a Japanese context. It explored issues such as the body in Japanese society, the role of the military, the media, amateurism and gender as well as the importance of language, geography and imperialism.</p>

 <p>Japanese reflections on history of sport</p> <p>The International Centre for Sports History and Culture (ICSHC) hosted an international research symposium on Japanese Reflections on the History of Sport in September.</p> <p>Dr Keiko Ikeda (Yamaguchi University) and Professor Masayuki Ichi (Waseda University) who are both visiting researchers within the ICSHC, were joined by Dr Hiroe Sasaki (Ryukoku University), Dr Mihio Koshikane (Kokushikan University) and PhD student Daishi Funaba (Yamaguchi University) for the one-day event.</p> <p>The day included the presentation of new research that challenged pre-conceived perceptions of Japan's role. The symposium highlighted the process of adaptation and acculturation of Western sports since the late 19th century within a Japanese context. It explored issues such as the role of the military, the media, nationalism and gender as well as the importance of language, sociology and imperialism.</p> <p>More than 95 delegates attended and included academics from Japan, South Korea and Germany.</p> <p>★ Photoed by Dr Keiko Ikeda (Yamaguchi University) and Dr Paul Larkin (De Montfort University)</p>	<p>2010 年発行</p> <p>『ドゥ・モンフォート大学学報』に掲載された、日英比較セミナーの記事</p> <p>(写真はプロジェクト代表者 山口大学 池田恵子 ドゥ・モンフォート大学 Dr. Neil Carter)。</p>
--	---

 <p>Research symposium puts a far east perspective on sport history</p> <p>On Wednesday 8 September 2010 the centre hosted an international research symposium on Japanese Reflections on the History of Sport. Dr Keiko Ikeda (Yamaguchi University) and Professor Masayuki Ichi (Waseda University), who were both visiting researchers within the ICSHC, were joined from Japan by Dr Hiroe Sasaki (Ryukoku University), Dr Mihio Koshikane (Kokushikan University) and PhD student Daishi Funaba (Yamaguchi University) for the one-day event.</p> <p>In seeking for areas of the symposium, Dr Paul Carter, seminar researcher, followed within the centre and the co-organiser of the day with Dr Keiko Ikeda. The history of sport has its origins in the UK and North America. Sports history has subsequently been dominated by particular themes in each region, close to the UK, although in North America, this has been less so.</p> <p>In November DMU signed a partnership with Leicester City Football Club. The club is managed by Professor Paul Gillett, who is also the club's Director of Football. The club's Director of Sports, Dr Neil Carter, is also a member of the club's board. The club is also a member of the club's board.</p> <p>DMU sign partnership Leicester</p>	<p>2011 年発行</p> <p>『ドゥ・モンフォート大学人文学部国際スポーツ史文化研究所ブリテン』および公式ウェブサイトに掲載された昨年 9 月の日英比較セミナーの記事</p> <p>(写真は日本からの参加者)。</p>
---	---

	<p>教育・研究、学術交流の今後のために ICSHC 国際スポーツ史文化研究所の DVD を作成した。ICSHC および山口大学にて所持。一部国内の他大学の研究者にも配布した。</p> <p>(日本語字幕付：池田作成)</p>
---	---

<p>Inquiries 問合せ先</p>	<p>Dr. Keiko Ikeda Faculty of Education E-mail: kikeda@yamaguchi-u.ac.jp tel/fax:+81-83-933-5381</p> <p>池田恵子 教育学部 E-mail: kikeda@yamaguchi-u.ac.jp 研究室直通：083-933-5381</p>
----------------------------------	---

5. 大学院医学系研究科（医学） 杉野法広教授他

「Michigan State University WOMEN'S HEALTH SYMPOSIUM ITINERARY」

【アメリカ合衆国】

Project Title プロジェクト名	Michigan State University WOMEN'S HEALTH SYMPOSIUM ITINERARY
YU Department 部局	Obstetrics and Gynecology, YU Graduate School of Medicine 大学院医学系研究科産科婦人科学
Date 期日	2010.8.4
University or Institution Abroad 相手大学・施設	Michigan State University (USA)
YU Participants 山大側参加者	Obstetrics and Gynecology : Norihiro Sugino (Prof.), Isao Tamura, Fumie Kizuka, Ken Taniguchi 産科婦人科学 : 杉野法広 (教授)、田村 功、木塚文恵、谷口 憲
Counterparts 相手国側参加者	Prof. Asgi Fazleabas (USA), Prof. Richard Leach (USA), Dr. Jason Knott (USA), Dr. Karen Patricia Williams (USA), Dr. John Risinger (USA) など
Travel Cost 旅費	Expense 自費または研究費
Current Results 【当面の成果】	学術交流
Possibility of Future Development 【今後の 発展性】	学術交流、共同研究、人材交流の発展
Contents 内容	Michigan State University WOMEN'S HEALTH SYMPOSIUM ITINERARY に招請され参加し、学術講演を発表し議論を行い、 学術交流や人材交流を深めた。

Inquiries 問合せ先	Norihiko Sugino (Prof.), Dept. of Obstetrics and Gynecology, YU Graduate School of Medicine, 0836-22-2288, sugino@yamaguchi-u.ac.jp 大学院医学系研究科産科婦人科学、杉野法広(教授)、 0836-22-2288、 sugino@yamaguchi-u.ac.jp
--------------------------	--

6. 大学院医学系研究科（医学）杉野法広教授他

「産科婦人科学特別セミナー」 【フランス】

Project Title プロジェクト名	Special Seminar of Obstetrics and Gynecology 産科婦人科学特別セミナー
YU Department 部局	Obstetrics and Gynecology, YU Graduate School of Medicine 大学院医学系研究科産科婦人科学
Date 期日	2010.11.18
University or Institution Abroad 相手大学・施設	Genethon, Evry, France Universite Evry Val d'Essonne, Evry, France Ecole Pratique des Hautes Etudes, Evry, France
YU Participants 山大側参加者	Obstetrics and Gynecology : Norihiro Sugino (Prof.), Shugo Nawata, Hiroshi Tamura, Akihiro Murakami, Yoshiaki Yamagata... 産科婦人科学 : 杉野法広（教授）、縄田修吾、田村博史、村上明弘、山縣芳明、その他多数
Counterparts 相手国側参加者	Professor Andras Paldi
Travel Cost 旅費	自費
Current Resultts 【当面の成果】	学術的情報交換
Possibility of Future Development 【今後の発展性】	共同研究や人材交流の発展
Contents 内容	Professor Andras Paldi に学術講演を依頼し、そこで議論を行い、学術交流や人材交流を深めた。
Inquiries 問合せ先	Yoshiaki Yamagata, Dept of Obstetrics and Gynecology, YU Graduate School of Medicine, 0836-22-2288, yymgt@yamaguchi-u.ac.jp 大学院医学系研究科産科婦人科学、山縣芳明、 0836-22-2288、 yymgt@yamaguchi-u.ac.jp

7. 大学院理工学研究科（理学）増本誠教授他

「ベトナムの HUT（ハノイ理工科大学）との研究交流プロジェクト」 【ベトナム】

Project Title プロジェクト名	Research exchange project with HUT ベトナムの HUT（ハノイ理工科大学）との研究交流プロジェクト
YU Department 部局	Faculty of Science (Department of Mathematical Sciences, etc.) 理学部（数理科学科 他）
Date 期日	2010.04.01-2011.03.31
University or Institution Abroad 相手大学・施設	Hanoi University of Science and Technology (HUT), Faculty of Applied Mathematics and Informatics (FAMI), Vietnam. ハノイ理工科大学・数学情報学科・ベトナム
YU Participants 山大側参加者	Department of Mathematical Sciences, Faculty of Science: Makoto Masumoto (Prof.), Fumihiko Hirosawa (Associate Prof.), graduate students. 理学部数理科学科：増本誠（教授），廣澤史彦（准教授），大学院生
Counterparts 相手国側参加者	Le Hung Son (Prof.), Nguyen Thai Ngoc (Lect.), Bui Tang Bao Ngoc (Lect.), Pham Trieu Duong (Lect.; Hanoi National University of Education)
Travel Cost 旅費	山口大学理学部学部長裁量経費，科学研究費補助金（廣澤；基盤(C)）
Current Results 【当面の成果】	HUT (FAMI)と本学理学部との学部間交流協定の締結。 HUT の大学院生に対する集中講義の実施（増本・廣澤）。 大学院生（本学理工学研究科情報科学専攻，数理科学専攻）の交換留学と研究滞在。
Possibility of Future Development 【今後の発展性】	1. 共同研究の展開。 2. 大学院生の相互派遣。
Contents 内容	2010年の Ngo Bao Chau 氏によるベトナム人として初（アジアでも日本に次いで2番目）のフィールズ賞受賞からもわかるように、ベトナムの大学の上位層の学生の数学のレベルは高い。一方では、HUTに限らずベトナムでは大学教員の学位取得率が低いため、国策で海外での学位取得を推奨しているため、将来的に山口大学での学位取得を目的とする大学院生受け入れにつなげてゆくことが期待される。

	<p>HUT の管理棟。建物の多くがカラフルに彩色されている。</p>
	<p>HUT や他大学の大学院生・教員に講義を行う増本教授。</p>
	<p>講義に出席したハノイの教員・大学院生たちと、増本教授、廣澤准教授、猪岡君（理工学研究科大学院生）。</p>
	<p>滞在中に招待講演者として参加したハノイ科学大学における研究集会の親睦会。HUT から以外にも、ベトナム国内、海外から多数の研究者が出席した。</p>
<p>Inquiries 問合せ先</p>	<p>Fumihiko Hirosawa (Department of Mathematical Sciences, Faculty of Science), Tel: (+81) 83-933-5651 / Fax: (+81) 83-933-5665 E-mail: hirosawa@yamaguchi-u.ac.jp 廣澤史彦（山口大学理学部数理科学科） Tel: 083-933-5651 / Fax: 083-933-5665</p>

8. 大学院理工学研究科（工学）上村明男教授

「Accepting a visiting Professor and exchanging researchers from Erlangen University」

【ドイツ】

Project Title プロジェクト名	Accepting a visiting Professor and exchanging researchers from Erlangen University
YU Department 部局	Kamimura Laboratory, Department of Applied Molecular Bioscience, Graduate School of Medicine
Date 期日	8/September/2010 to 10/November/2010
University or Institution Abroad 相手大学・施設	Department of Chemistry and Pharmacy, Friedrich-Alexander-Universität Erlangen-Nürnberg
YU Participants 山大側参加者	Professor Akio Kamimura
Counterparts 相手国側参加者	Professor Markus Heinrich Miss Sarah Höfling
Travel Cost 旅費	Erlangen University
Current Results 【当面の成果】	1. Promotion of student exchange. One PhD student was accepted in YU. 2. Promotion of academic exchange and collaboration.
Possibility of Future Development 【今後の発展性】	1. Expanding the opportunity for student exchange. 2. Expanding the opportunity for academic staff exchange. 3. Promoting international collaborative work in chemistry.
Contents 内容	Erlangen University is one of the leading universities in Germany. The research level in chemistry is at an excellent level so YU gains a lot of opportunities to enhance research activity and to improve student education for the PhD course. This was a starting point of academic and student exchange between the university and YU. The exchange student stayed at YU for two months and did research work on organic chemistry. In the next opportunity, YU PhD students will have an opportunity to benefit from excellent education/research in that university in a long-term program (6-10 months). At the moment, the relationship is promoted based on personal relationships. If YU hopes to strengthen the relationship, much more financial and human resource support is definitely needed.